

家庭・保育所・幼稚園

# 幼兒の教育

第五十五卷 第十二号

昭和三十三年四月十五日 第三種郵便物認可  
昭和三十一年十一月二十五日印刷納本 幼兒の教育 第五十五卷 第十二号  
日本国有鉄道特別承認雑誌第六八三号

昭和三十一年十一月一日発行

一



12

日本幼稚園協会

# トツパンの 愛児絵本

五大特長



- 就学前の幼児を、前期(1~3才)後期(4~6才)の二期に分けて、それぞれに適切な編集をしてある。
- 新感覚の動きのある絵、前期はパックを単純化、後期は構成的な要素を折込む。
- 大きくよみやすいネーム、前期は歌う調子、後期は読む調子。
- 内容は、どうぶつ、のりもの、知識ものなどの基本的なもの
- 美しい印刷と堅牢な造本。

監修 山下俊郎先生

前期用 各 50 円 発売中  
\*のりもの \* じどうしゃ \* きし  
やでんしゃ \* タのしいのりもの  
はどうようえほん \* どうぶつ  
ぶつえん \* たのしいのりもの  
後期用 各 60 円 発売中  
\* かずのえほん \* のりものえほ  
ぶつ \* あいうえお \* せかいのどう

東京日本橋茅場町一の二〇 トツパン

子供はどのように育っていくか、又どのように育てなければならぬか、多くの課題を秘めたこの問いに対し……  
本書はこの幼児の身体的の发育・精神的発達の状態を一般的な予備知識として、指導の実際と関連づけた。

A5 判上製  
価三二〇円

## 保育

お茶の水女大教授 同附属幼稚園園長 及川ふみ著

目次

・総説・教育史上に現われた  
児童前中期・児童期後期・子供  
とおもちゃ・子供のいろいろの幼  
稚園・幼稚教育の施設としての保  
育園・社会施設としての保育

最新刊

☆

☆

☆

## 新刊・母性及び小児栄養

医学 博士 斎藤文雄著

目次・①母性栄養・妊娠・分娩・母乳の特質・母乳授乳の実験所要  
量・妊娠・分娩・母乳の疾患の食餌療法  
②小児栄養・小児栄養の特質・母乳期の栄養方法・小児の栄養方法・母乳

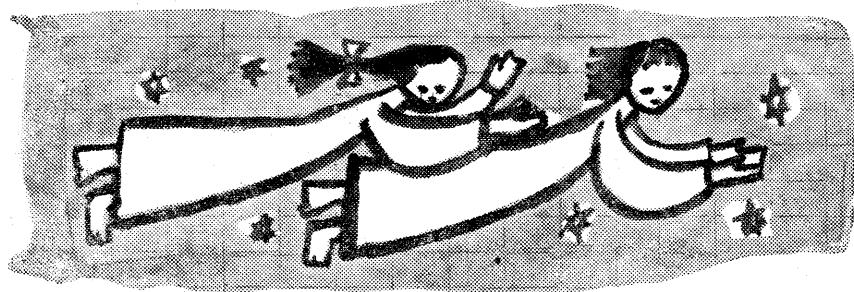
## 児童福祉概説 社会福祉概説

東北助教 助教 大田代不二男著

一九六〇円  
一一九〇円  
二二〇四〇円  
二二〇四〇円

東京神田神保町三一十九

光生館 振替東京一三〇六二九



## 幼児の教育 目 次

— 第五十五卷 十二月号 —

表 紙 堀 文 子

幼児のアクシデント…………… 斎藤文雄 (2)

紙芝居の教育とその演出…………… 坂本越郎 (5)

「童話化」について (6)…………… 本田和子 (11)

一年保育と二年保育の問題…………… 山村きよ (14)

はなし言葉の指導について…………… 長谷川朝子 (16)

幼児の言葉からうまれたうた…………… 鈴木正子 (20)

坂内ミツ先生をお偲びして…………… 藤間富子 (22)

◇実践記録◇水族館ごっこ…………… 高澤章子 (25)

この夏の旅…………… 藤井富子 (27)

—座談会記録—明治末期の幼稚園…………… 関菊地ふじの子 (32)

幼児のダイナミックヘルス…………… 岡本卓天 (45)

◇幼児の知能の研究の◇知能の診断(下)…………… 村山貞雄 (48)

沖縄の生活…………… 津守真 (54)

総 目 錄…………… 津守真 (59)

編 集 後 記…………… 津守真 (64)

編集主幹 及川ふみ 編集主任 津守 真

協力委員 牛島義友 斎藤文雄 多田鉄雄 波多野完治 山下俊郎 (五十音順)

# 幼児のアクシデント



斎 藤 文 雄

幼児の保健という立場からいって、どうしても看過しえない問題のひとつに、不慮の事故(accident)と称せられる一連の災害がある。今の今まで元気でいたわが子が瞬時に死んでしまう、重篤な病気に、怪我に見舞われる、というような災害は存外に多いものである。わが国では不慮の事故で死亡したものは死亡届が出るから、年間どれくらい死亡するかということが判る。しかしこんな事故のために生命は落さなかつたが、あとで生涯思いもよらない不具者になってしまつたり、醜い傷あとを残したりするものの数は大変なものであるに違ひないが、これは統計的にわからない。個々の病院や診療所で取扱った例数は別に届出を要しないので全国的につかみ得ない状態にある。

先ず不慮の事故で死亡した子供の統計的観察から話を進めていこう。子供がいろいろな病因で死亡するが、そういう原

因の中で不慮の事故死は何番目ぐらいに頑張っているか。一年以下の乳児では六番目、一一四歳児では三番目、五十九歳児では実に一番目である。いろいろな病気で死亡する乳幼児の中では、このように不慮の事故死が存外大きな割合になっていることは注目に値する。厚生省の最近の発表の数字では全年齢の不慮の事故死三万三千の中で一一四歳児が九、六三〇人、即ち $\frac{1}{3}$ は乳幼児である。勿論男の子の方が犠牲者が多く、男女児間では年間千人くらいのひらきが見られる。

ひとしく不慮の事故といつてもその内容はいろいろであるが、わが国では何といっても水による障害、即ち溺死などが前記○一四歳児九、六三〇人の中四、三六九人になつており第一位である。次は自動車事故、火及び熱湯蒸気による火傷、可燃性物質の爆発による事故、寝床などの機械的窒息、中毒、墜落、落下物による打撲などがつづいている。こうし

てみると、わが国では溺死、溺水という死因、及び自動車による交通事故、この二つは真剣に考えておかなければならぬ重大な死因であることが判る。都會地の交通事故、地方の溺水死、この二つが乳幼児の不慮の事故死の中で悔り難い死因となつてゐることは、指導的立場からいってその対策は真剣に考えられる必要があらう。幼稚園や保育所での集団保育は勿論ながら、施設への往復路の沼、池、小川、海、溝さえも子供の溺死をひきおこしうるのであるから、こういうところでの遊びの誘惑からいかに子供を護るべきか、これは施設だけがいかに策をめぐらしてみても間に合うことではない。何か事故が起ると、その地に供養塔をたてたり地蔵さんを建立したりしたがるのが日本人である。事故が起る前にみんなでその防止法を講ずることこそ重要な課題でなければならぬのに、行政当局も町民も社会の子どもという意味では熱意が足りないといつて差支えない。電柱が朽ちて大風で倒れることは目に見えていながら電灯会社は町民の訴えに耳をかさなかつたために感電死した子供がある。これは鉄路の踏み切りでも同じこと、裁判沙汰になつて訴えられてもなお、直そうとしないような物の考え方は、どう考へても言語同断、結局ことも見る眼をもたない日本人であるからといふことであろう。

同じことは交通事故でもいえる。歩行者優先という看板

は、今のところまだで看板である。歩道もない通路、店の品物が歩道まではみ出している通路、そして運転手は歩行者を頭から馬鹿者とみて走らせている臆面、これで子供の交通事故が年々ふえたから、ふえない方が誤りであるといつてよからう。こういうことが法律でしばらなければ改善されないと、その國は確かに野蛮国である。精神年齢は十二歳どころではなく、もつと下である。少なくも幼児期までの子供は大人が警戒すべきで、子供には罪はない。その幼児が自動車事故だけでも数多くの生命をおとしていることは、やはり社会がわるいということに他ならない。

しかし、それが社会人の自覚なり、法律なり、どちらでもとにかく実現される時代はくるだろうか。何十年か先には来るであろう。しかし現在の幼児をどうするかに大きな問題がある。子供に教育する、これは必要なことちがいない。幼稚園の子供が旗を出せば、電車も自動車も止つてしまふ。子供たちが横断すると当番の子は旗をひつこめて自動車を通す。このことは本誌にも報告した私のニュージーランド見学の時の見聞であるが、幼稚園の子でも、こういう点では立派に社会人としての待遇をうけられるのは結局社会人が子供を尊重しているからであろう。ここまでわが国の社会人の頭が訓練されるのは何年先かわからない。やはり警官をたくさんつくつて保護してもらいたいのが日本人なのだから、一方に

はどうしても子供の危険な場所や物に対する教育は徹底させておかなければならない。

施設の内外よりも、難は家庭の周辺にあることも心得ておかなければならない。

ある外国の病院で治療をうけた五年以下の子供の不慮の事故の種類及び件数を率で現わすと次の通りである。

院者数に対する% すべての不慮の事故入 院者数	そ の 他 患 者 總 数	開孔部から異物侵入の 障害	頭部傷害(骨折以外)	薬物中毒	やけど(火及び熱湯)	裂 傷	骨 折	以下 一年 二 年 三 年 四 年 五 年 總 計			
								一 年	二 年	三 年	四 年
七%	二〇人	一〇〇	八〇	二〇	一〇	一〇	一〇	二、〇	二、〇	一、九	一、九
三五%	七人	三五	二二	一〇	一〇	一〇	一〇	一、四	一、四	一、六	一、六
三六%	七人	三六	二二	一〇	一〇	一〇	一〇	一、五	一、五	一、六	一、六
三三%	九人	三九	二二	一〇	一〇	一〇	一〇	一、五	一、五	一、六	一、六
二〇%	七人	二七	一六	一〇	一〇	一〇	一〇	一、一	一、一	一、一	一、一

年齢的には、幼児期、ことに二~三年児に多いこと、火傷が多いこと、骨折は同じ児でも遊びが激しくなるにつれて多くなること、などがわかる。家の中の劇薬、毒薬、マッチその他の火器、刃物、台所の鍋などの始末など、うかつにできないが、同時に家の周辺の溜池、溝、崖下のような場所についても、一応子供が遊ぶ範囲内での危険な場所は単に近よるな、行くなの禁止令でなく、先をこして危険物除去にのりだすべきではなかろうかと思われる。

不慮の事故の大部分は不可抗力ではない。予めその対策について先手を打てば防止できるものである。死亡すると否とに拘らず、事故はすべてが突発的な予期しない時に起る。その瞬間に気がついたのではおそい。家の内外は両親の責任において、その他は社会人の責任において防止策が事前に考えられる必要がある。これから冬になると火傷が当然多くの発生する。施設としても、家庭としても最一度改めてこの問題を検討してほしい。というのは、死んでしまってからでは間に合わないからである。死ななかつた場合でも、醜い傷あとを終生に残さなければならないし、そのため年齢が長じてから、精神的な障害をうけてまともな青年となり得なかつた子供を幾例かみせられている筆者は、最一度ここに不慮の事故防止の問題をとりあげる。

(筆者は聖路加病院小児科長)

これらは、前述のように届出のあつたものではない。即わち死亡した不慮の事故は入っていない。怪我はしたが生命に別状はないというものであるが、これをみても判るように、



## 紙芝居の教育とその演出

坂本越郎

私のお話を致します」とは、紙芝居を幼稚園などで保育の教材として使う場合の原理と演出方法です。紙芝居と一口に申しますけれど、紙芝居が視聴覚教育の教材として使われていることは、現在まだ少ないのでないかと思います。紙芝居を教育的意味で使うのではなく、ただ楽しみのために使っているのが普通でしょう。もっと保育教材として使っていただきたいと思います。

それではどうすればよいか。まず紙芝居は視聴覚教材としてどういう意味があるかをお話しましょう。(1)で問題になるのは Communication といふことです。この意味は、通信とか伝達の意味です。例えば犬がほえるという場合、他の犬達にこわいものが来たことを知らせる時吠える。一犬ほえて万犬ほえるということになる。犬はこうして伝達する。人間は言葉という抽象物で伝達できる。これは人間だけがもつた機能です。例えば犬と子供が散歩に行き暑いので子供が川で泳ぐ。急に深い所へ入って子供はおぼれそうにな

る。するととりこなした犬なら主人のためにほえるだけでしょう。(2)の場合人間の子供がそれをみたなら、誰かに危険を知らせるために走り出す。そして「川で子供が溺れかけているよ」ということを抽象して誰かに言葉で伝え助けを求めることができる。(3)に Communication が成り立つ。A から B に言葉で伝えることによって向上してきました。つまり Communication をもつたことにより、人間の文化が動物よりも発達したのです。さらに、これがラジオとか、映画となる魔力的な大きな影響を生むようになります。現代のマス・コミュニケーション といふのがこれである。マス・コミとは大衆に伝達するということです。マス・コミの原理は送り手はごく少数の人であるが受け手は多くの人であるということです。紙芝居なども僅かながら、このマス・コミの性質をもっています。しかしこれには映画・ラジオなどのように大勢の聴取者の獲得はできない。しかし、紙芝居はどうでも持ち運び演出することができる。これを A 地か

らB地へ場所の移動をすれば、ある程度の大衆をつかむことができ  
ます。先日の選舉の場合にも紙芝居がつかわれました。被選舉者の  
経歴を紙芝居にして宣伝効果をあげたのです。

そこで、Communication はある意味で教育と、うものと一致す  
る。教育ではどんなことを生徒に教えるかだけでなく、どうして生  
徒に伝達するかを考えることが大切である。今日の教育では學習方  
法、教育方法を考えることが大切に考えられます。

Communication のもとの意味には、共にわかつ、参加するといふ  
意味があります。コンモン 「共通」という意味です。A の伝えよう  
とする内容、例えば教育内容をB に伝えるといふことより、A とB  
が共通の内容をもつといふことが Communication の大切なといふ  
のです。

デモクラシーの原理は、世論を重んじること、つまり一緒に住ん  
でいる者同志が協力することを重要な原理とします。この協  
力といふことはお互に共通の利益、共通の思想をもつて解決するこ  
とです。デモクラシーを発達させていくには、Communication が  
大切なわけで、今日視聴覚教育が大切にされたいのは、いうと  
ころに根拠があるので。わかち合うといふことは除け者をつくら  
ないということです。教育における Communication は、仲間が共  
通のことについて話し合ふのではなく、お互いに新しいものを学  
び合うことによって定義づけられます。

ところが Communication は、言葉だけの仕事ではない。言葉は

重要ではあるが、それのみに限定はできません。我々は身振りであ  
るとか表情によつても、相手にことを伝えることができます。昔で  
あれば剣の修業なども、言葉を用いずに師匠から弟子に伝授します。  
身振り、拳動など、依心伝心によつて Communication が成り立つ  
場合もあります。また逆に Communication が成り立たない場合は、  
相手に対してもちらの言葉のもつ概念が広すぎたり狭すぎたりし、  
通じない場合です。相手に通じさせるには、相手の経験の範囲を、  
Communication とするものが理解し、心得ていることがどうし  
ても必要です。

これは幼児教育によくある問題で、先生の、うことが子供によく  
わからない場合がある。経験のないもの、少ないものは Communicat  
したものであるため、この抽象の押しつけが今まで行なってきたの  
です。しかし概念は体験の基礎に裏づけられ、具体化されると、相  
手に理解され易くなる。ここに視聴覚教育の意味があります。

われわれは、さまざまの教材を通して現実をみせたり、聞かせた  
りして、言葉の概念へと導いていきます。ここに具体と抽象が交互  
に行われる所以あります。視聴覚教育は言葉といふものを使って一  
般化し、こちらの内容が相手に伝えられます。言葉が具わってはじ  
めて相手の思考作用を働かせ具体を抽象化することができます。

これは幼児教育においてよく体験していることと思ひます。例え  
ば(紙芝居の一画面を示して)「これはひよーの絵ですね」とつて

しまったのでは、こちらから概念づけを与えてしまっていませんが、相手から何だという事をつかませる必要があります。我々の体験の中には必ず言葉がしみ込んでいます。しかし言葉のみで教えることは抽象すぎるからよくわかりません。それを一つの絵を示すことにより具体から抽象へもっていくことができます。

Communicationには、(1)形式的伝達と(2)非形式的伝達があります。(1)は道具を使うもの。(2)は言葉や絵だけでなく感情や印象等によって伝達する、例えば絵を見る場合、芸術的感動によってはじめて芸術作品を解釈し鑑賞することができる。殊に幼児教育のうちには情緒的教育をやることが必要です。これがうまくいかないと功利的になつたり感情が偏頗になつたりします。

紙芝居においてもこれを土台とし、この中に Communication を成立させます。Communicationを(1)と(2)に分けたが幼児教育においては未分化の時代であるので両方を混ぜて行なうことがよいと思します。幼児は大人と違つて情緒的直感の鋭さをもつてゐるので、これを回路とし、子供と先生の間に教育の過程の回路を成立させます。紙芝居は、こう回路をうまくつくるのです。

紙芝居の歴史

次に紙芝居の歴史をすこしお話しましよう。幻灯は享和元年にオランダエキマン鏡という名で江戸に見世物として出ました。当時はマジックランタン(幻灯)といわれオランダ渡りのものでした。ところが、紙芝居は日本独特のものであり、昔の絵巻物、おとぎ草

子、子供の絵話から進歩したものといえましょう。絵巻物を一区切ずつ切つて重ねたものが紙芝居の形式の初めともいわれています。

紙芝居は歴史的には二つの形式があります。

一つは立絵式紙芝居で一種の人形芝居でした。紙人形を切抜いて箸にはりつけ絵舞台の前で、人形を立てて動かすのです。人形は箸でささえられているから裏側も利用できます。そして舞台からは出し入れも自由です。

明治の終り頃から出て来たのがもう一つの、いわゆる平絵式紙芝居といふものです。前者は舞台の絵はそのままにしておいて、人形を動かしました。しかし後者は舞台の絵を何枚も動かすようにいたしました。人形は絵の中には書き込まれています。

平絵式紙芝居は芝居の舞台面の制約から離れることが有利です。絵を自由にかくことから、今日の紙芝居の劇形式を成立させたのです。

これは今日では街頭紙芝居と教育紙芝居とに分かれています。街頭紙芝居はご存知のように商売としてやっており、あめ屋の一種です。子供達にとってはあめさまで買えばお客様になれるのです。

食品の方では心配もあるが、東京都では街頭紙芝居連盟を作つて、教育的にも考慮されています。兎角それが街頭の子供達の娯楽であったことは忘れる事はできません。唯一の今でも子供達の社会教育の対象であり、これに目をつむることはできないのです。

街頭紙芝居は肉筆で、絵をかき、その上にニスをぬつてはげない

ようにし、貸元の棚に入れておいて順々に廻らして使用する形式になっています。

教育紙芝居は印刷されて、学校や幼稚園でつかうものです。いろいろの題材で子供の教育課程に応じる必要から、印刷されています。教育紙芝居は、印刷紙芝居ともいわれているものです。

昭和十二年に日本紙芝居連盟が発足し、それ以来教育のための印刷紙芝居として広く使われるようになりました。昔の紙芝居の枚数は二十枚～三十枚でしたが、幼児のみる時間の問題、回数の問題などによって一組が十枚～十六枚となり、今では十二枚が非常に多くなっています。

街頭紙芝居には連続物がありますが、教育紙芝居では、一種に一つの主題でまとまっているのが特色です。また写真によるものも少しありますが遠近がうまく出ないようです。紙芝居は自作することもできます。幼稚園では大いにつくつけていただきたいし、子供達にもつくらせることに教育的な意味があります。紙の上に絵ばかりではなく、色紙や、布切れや、はり紙ではって美しくつくることができます。

教育紙芝居で市販されるものは、昨年度は一八九種という非常に少ない数でした。売行きが悪いので製作は月に一、二本程度でしょう。

### 紙芝居の構成原理について

紙芝居はきわめて簡単なものから成り立っています。

#### 絵の原理

紙芝居の絵は性質上第一には、絵の構成が単純で客観的にわかるということ、バックを簡単にし、物語との関係を、直感的に感受す

すなわち、数枚の紙に描かれた絵と、物語と、演出から成り立っています。絵がなければ紙芝居は成立しません。絵本等には紙上芝居と称して、ふき出しのついたのがあるが、演出のない紙芝居は本当の紙芝居とはいえません。

構成要因としては、絵、演出、物語の三つがなければ、紙芝居は成り立たないです。

幼児は絵を見るよりも、絵を読むのです。自分の経験の中にあるものが絵に出てくることを喜びます。

絵本の場合には、よく絵をみせ、子供が読み取るものを見挙げます。子供にはこれが愉快なのです。

たとえば、幼児は未分化である為に、女人の人でちょっと大人のようにかいてあれば、すべてお母さんに見えるのです。

絵をみてそこにかいてある状態を空想的に描写するのが次の段階です。次には絵の中の状態から判断して理解します。この段階では、物語を絵で推量し、解釈します。就学前の子供に多い“なぜ”という言葉が多くなります。なるべく子ども自身に解釈させる必要があります。

しかしこれは紙芝居においてはできないことで、ここに絵本と紙芝居との違いがあります。

る、見分けることができるようになります。大切なことです。

第二には、場面や、見振り等絵の構成を変化に富ませることが必要です。同じ位置に同一人物が語って動かないのでは好ましくありません。なるべく場所も変り、事件も変り、人物も變るほうがよいのです。

第三には、紙芝居の約束として、絵は左へ抜かれ、左へ移動することになります。そこで、常に右の部分が先に見えて来るのですから、その点に重きをおいて絵の構成を考えることが大切です。

○視点の移動による連続  
絵を急に抜くと目の動きもそれに伴う為、運動感を与えます。これをを利用して次の絵へ移らせます。

○物象による連続  
物が連続して次の絵への移動をはかります。例 汽車

○類似の色彩による連続  
前の絵、次の絵の空の色とか壁の色の類似をはかります。

○色や形の伸縮による連続  
汽車の大小によって遠方から近づいてくる感をもたらします。また半分抜いて二つの場面があるようにみせます等。

○伏線的連続  
物語の内容により色彩の対比、バックまたは主要人物の変化等、起伏をつけながら目的地に向って進んでいくのが紙芝居の常道です。

第四に、物語は、絵を標準とすべきです。絵にかいてないことまで解説を入れないようにします。ごく単純にとすることが重要です。しかし単純といつても平板であってはなりません。一枚抜くことに、期待を満足させるように物語をつらなければなりません。

一枚の場面の提出時間は一分以内であること、また解説の文字数は二百字以内がよく、多くても三百字までです。

#### 演出の原理

演出は、劇形式は必要ですが、活弁口調である必要はありません。なるべく自然な口調で、出演人物のセリフはその人物に成り切ってすることが必要です。解説の長いのは邪魔です。子供の心をとらえながら進めて行くのに、間は重要な役割をもします。例えば「父帰る」(菊池寛)の父の帰ってくる場面、お父さんがおしおとて出で行つた後、次郎は追いかけたくてしかたがない。兄も新聞を読んではいるが心中複雑です。ここに間の呼吸が必要となるのです。

絵と文章との協調が必要ではあります、一々忠実すぎる必要はありません。門から子供が歩いて来て石につまずいてころぶまでを一枚ずつ絵に表わしていたのでは大変です。

物語の形式には、序、展開、葛藤、終結があります。「序」では人物、場所の紹介、事件の発端の表現をし、「展開」では劇の進行「葛藤」では、事件を出し、山とします(五枚く八枚必要)。「終結」は、一と一枚を使用して大団円をまとまりをつけます。

次に演出であります、話術が非常に重要な視なのです。肉声

でするのが本体で、テープレコーダーなどでは失敗をします。

演出者は紙芝居の後にかくされて、こわいをもつてするのが普通であります。音声はあまり誇張せず、象徴的な声を出します。物語も絵も象徴的でかつ単純でありますから、話術も調和させ、象徴的世界から現実に近づきます。これは能の芸術に近いものです。

演出は絵の解釈であるが、演出者の個性を出し過ぎてはいけません。絵に勝つても劣つてもいけません。絵と話術の綜合によってうまさが出てくるのです。

画面の内容によって「抜き方」つまり移動の速度を適当に変化させる必要があります。

画面の裏に指図があるから、それにしたがいます。「急に抜く」事は激動感、運動感をもたせ、「ゆっくり抜く」場合には、静かな感情があらわされ、悲しみや、夜の静かな場面などにつかわれます。

#### トリックの原理

絵の描き方にも関係しますが、さし込み等をして絵の中のある部分を動かします。最近ではこれを使っていません。

効果として、舞台のまわりにいろいろのものがない方がよいでしょう。舞台の卓には卓布をかけ、演出者の足をみせないこと、演出者は姿をみせないことが大切です。

幼稚園の場合には観る態度を導入する為に、舞台の傍に先生が姿をみせる場合がありますが、落ちついてみせるようになつたら、後にかくれた方がよいのです。

舞台は演出者の抜く手が目ざわりにならないように、袖のあるものがよいし、幕のあるものをつかって舞台の形式を整えると一そうよいと思います。

刺激的な言葉や動作はさけます。回りのものを使ってまで演出する必要はありません。絵の中の人物を浮き出すためには、演出上の发声法を研究することや、歌も上手にうたえるよう練習しなければなりません。

以上、紙芝居の絵、物語、演出上の注意を申し上げました。

次に紙芝居の実演をお目にかけます。

- 一、どなたのぼうし（はり紙芝居）——お茶の水幼稚園自作
- 二、かえるの王子さま（情操教育用）——教育画劇社製作
- 三、モンタくんとうさちゃん（保健衛生用）——教育画劇社製作

まず紙芝居の演出には、作品をよく読みとり、それを声に表現致します。これは「話し方」「抜き方」の二つになりますから、「話し方」をはっきり、親しみ易く生きた言葉です。『抜き方』は、円滑に静かに抜くことで、裏面の注意書きをよく理解して、作品の山へ子供たちを引きつけていくようにします。

声のよくよくで演出する場合と声色で演出する場合がありますから、よくおきき下さい。（筆者はお茶の水大教授）〔未完〕

# 「童話化」について（六）

本田和子



## 四、「童話化」の現状と様々な問題。

成人の世界に産み出された幾つかの物語が、子供の世界に取り入れられることはそれだけ子供の生活を豊かにする。

更に Terrian によれば、十二・三歳頃から児童の間に児童図書を嫌がる傾向がみられるといわれ、Hazard も子供達は彼等を “Dear little” として扱う本をしりぞけて “equal” として対するものを好むといつて。成人の物語を通して成人の世界を探ろうとするのでもあるうか。

ともあれ、この機会を逃さず、適当に取捨選択して成人の物語を与える、古典への眼を開かせることは意味深く思われる。

成人を対象として産まれながら、現在子供のものと化している物語

は「本来どんな性質をもっていたか」「それがどう変化して子供の物語となつて、いるか」それについて考えてみた。

現在、「童話化」している物語は、充実した筋を持ち、動的でスピーディな展開をする。そしてはつきりした結末をもつ浪漫的な作品が多くつた。

それらの物語が短縮され、説明調になり、言語・描写が児童的に平易になり、強い刺戟・残酷性は幾分感傷的に柔らげられ、性的な事件・感情は省かれるか簡約化される。そして、結果として原作より単純に不合理になる傾向があつた。

筋が充実していること、これは児童のための物語にとって本質的な条件であるとされている。物語に対する児童の態度は、決して知識を得ようとか、人生を学ぼうという意識的な目的意識に支配されたものではない。“礼儀は強制する”ことが出来るが、読書は強制し得な

い」とは Hazard の言である。児童の求めるものが不均衡への刺戟

であり、それを実際経験によらず情緒的興奮だけで味わおうとしているなら、そして、知的な興味というのも、親密性と反親密性の交錯の中に、直接に見聞し得ない事物に対して、向けられるとすれば、更に、物語の中に起る大きな変化によって緊張解消を欲していなるならば、「事件に富んだ筋をもつ」ということは不可欠の条件であろう。

動的で、展開がスピーディであるためには時間の進行と一致した物語の進行が最もよい方法として要求される。児童において早く発達するのは時間と併行した因果論理であることを考えると、これも児童に受け入れられ易いのは当然である。

結末が明確であることも当然、備すべき条件の一つであろう。物語の性質が起伏に富んだものであるだけに、事件を見まもる子供達の目的成就への欲求は可成り強くなるものと思われる。故に、この緊張を解消させるためには事件が一段落つくことが望ましいのである。

「童話化」された作品は、形が説明調になっているが、これは児童の初期の描画段階に知的写実とよばれるものがあつたことと思い合せて興味深いものがある。知的写実とは、事物の見えるままを描かず、知っている通りに描くことである。物語においても、見えるままに描写されたものより、知っているように描写されたものの方

が受け入れられ易いのでもある。

更に、児童は知的能力の未発達なばかりでなく、生活体験に乏しく行動範囲も狭いから、余りに複雑多岐な社会世相の描写や、風刺・皮肉は理解し難い。簡約化され、平易になり、単純化されるのは当然である。

結果として生じる原作に比しての不合理性は、児童の論理的思考力・批判能力の未熟さを、支配的な情緒性によって黙認されている現象であろう。

「上、まとめたのが「童話化」の現状である。これは、児童の世界に受け入れられているものだけに、先にみたように児童との結びつきも密である。然し、「ここに考えねばならない幾つかの問題が横たわっているように思えるのである。

先ず取材であるが、「プロットの充実性」が必須条件であるからといって、それは必ずしも「波瀾万丈な主人公の運命」を描写した物語だけ「童話化」の素材であることを意味しない。にもかかわらず、取材の範囲に著しい偏向がみられるのは一つの問題であろう。子供の要求がそこにあるにしても、与える側としては子供の世界に反映させる材料を多方向から選ばねばならない。この意味から新しい傾向の作品の「童話化」は望ましいことである。然し、それをどのように技術で「童話と化し、どのようにして子供の世界に浸透させたらよいかは、今後の問題であり、困難な問題であろう。

「童話化」の手続きに際しては、興味本位に筋だけが抜き出されることが問題となる。文学の持つ教育性の源泉は、作家の世界観・思想・知性などが單なる理論としてではなく、具体的な事物に即して感動をこめて語られる所にある。筋だけを追うことの無意味さを考えねばならない。平易に語り変えられることは必要な過程であるが、これが往々原作のニュアンスを消失させる恐れを持つていて。

心ない筆が、或いは言葉が、仮作物語めいたダイジェスト的なものに変えてしまう危険性は少なくない。これは日本語のむずかしさに一因がある。

以上、現状にみられる問題点を幾つか挙げてみた。然し、「童話化」というこの現象は児童の世界を富ます意味で望ましいものに思われる。児童に与える物語の範囲を単に狭く既成の童話に限らず、より広い視野の下に取材することを可能にすること。新しい童話の材料を求めるいとまを、児童の周囲にある成人達が持つことの出来なかつた場合、自身の感動を受けた物語の幾つかを改造して伝えることが出来ること、成人と子供が共通の感動体験の基盤をもつこと。などその効果は数えられるであろう。作家という特定の人を除けば、多くの成人達がよりよい児童文学の前進のために役立ち得る行為は、よい物語の選択とその与え方に集約される。ここで考えてみた「童話化」の考察が、このような児童を包む人々にとって、幾分の参考ともなればさいわいである。〔完〕（筆者は尚絅女学院講師）

## 倉橋記念文庫

### 御協力の御芳名

かねてより、私共相はかり、倉橋記念文庫の計画を企て御協力をお願ひいたしましたところ、幸い皆様方の御讃同を頂き、多分の御拠金を賜りましてまことに有難く存じました。

つきまして、第四回の発表、昭和三十一年四月二十日以後、昭和三十一年九月二十五日までの御芳名を左に掲載させていただきて御協力を謝し、受領証にかえさせていただきます。（発表は到着順敬称略）

昭和三十一年九月二十五日

倉橋記念文庫係

代表及川ふみ

津守よ真

今城晶子

藤いく子

立野みえ

一、〇〇〇

五〇〇

〇〇〇

後藤縫

山村きよ

「幼児の教育」

大正十四年以降昭  
和十九年十二月ま  
で約一八〇冊

立野みえ

石村綾

価格二八七〇  
著書九冊

山下俊郎

以上合計 三三八一七〇

## 子どもの姿

### 育児

もと話をてしいるとき、その話をききとて友時には友達同志の話し合いに発展させしまうこ

自分のものとして話をすすめることもある。こどもの多い。

きいて、はやのみこみをし、終りまできかないと対照して非常に目立つ)

したことを話すのに夢中になって幼稚園でのこ親も二年目になると無頓着になってきてやら

の中のことや近所のできごとまで、ありのままどももいる。

## 一年保育と 一年保育の問題

山村 きよ

(文京第一幼稚園長)

のあったことを話して、その時の家族の者の行動「わかりやすく話す」のに驚いた。

た傷我人のことから自分がけがして入院した時のそれをきいていたこどもの中で病気したことのあの時のことを話すのにつられて又他のこどもも、いろいろの経験をきき易く話すことどもが多かつ想像して話す場合によくその特徴をつかんで話す。

### 生活態度

#### 育児

いで一人でじっと絵本をみたり、他人のあそびている。又他人のあそびを気にしないで自分の多い。

きる。

でいろいろと遊びを考えたり、時には先生のいで勝手なことをする者もいる。

いところを選んであそぶこともある。

ない。時には男女入り混じて「動物園ごっこふ者が多い。

ある」ようにのびのびと生活している者が多い。

けてあいさつをしたあと、所持品を一定の場所に見付けるまでの行動が一年保育児のそれと比べて見える者が多い。

要なもの大事なものが見つからない時先生の見てやったり、一緒に「さがして」なければ二人で一々に事が運ぶ(一年保育児と非常に相違がある)リズミカルなメロディーを口ずさみながらスキッピとしている。

く集合しても、となり近所の者に「いたづらしたがしにかけてなかなか帰ってこない」で集団

十一号でのべたことがあまり抽象論に終ったので編集部から「具体的」と御依頼されたことに対する責任上もう一度実際方面のことについてみたいと思う。今回は紙面も少ないので幼稚園教育の全領域にわたることも、年間を通してのことも不可能と思われる所以部分的な生活場面を一学期間だけ「のぞき見」して、その「子どもの姿」から一年保育児の入園当初にはその指導に細心の注意をはらわねばならないことや、二年保育児のために過古一年間の教育効果をどのようにつみ重ねてゆかねばならないか大いに考えてみたいと思う。ことに最近は園児の少ないことが原因して一、二年児の混合組を編成し一人の教師が同じ保育室で指導せねばならない状況を思うとき、カリキュラムの展開をどちらに重点をおいて考えるべきか大きな問題だと思う。次にのべたことは前回にも度々のべているように個人差、家庭環境、幼稚園差などで、ちがつた状態にあるところもあると思う。しかし幼稚園教育のさせたり、あともどりさせぬように常に反省しながら私共の責任に於て指導効果をあげるために努力してゆかねばならないと思つ。

## 言語生活に表われる

### 一年保育児

1. あいさつの言葉は知っていても積極的に云えない者がいる。
2. 先生対A、B、と一対Aで話することはできても友達同志では話せない者が多い。
3. こどもから話しかけることは少なく、先生からの話しかけることを待っている者が多い。
4. 先生の言葉は理解できるが非常に緊張して、一言一句ききもらすまいと努力し、かたくなって聞いてる者が目立つ。
5. いつも新鮮味をもって先生の話をきき家庭に帰って話す（母親も一生懸命引き出す）話題が幼稚園生活の中に限られていることが多い。

### 二年保

1. 先生がA、B、のこと達同志で話す者が多く、もある。
2. 他の人からきいた話を
3. 先生に話しかけたがる
4. 先生の言葉を一言二言者もいる。（一年保育児
5. 自分の見たもの、経験とはあまり話さない。（母ないこともある。）
6. 話題が豊富で自分の家を「あっさり」と話すこ

#### (実際例)

- 先生の言葉も理解でき、話す態度もきちんとしているのに、話の内容はいつも同じようなことばかりで同じように経験する（二年保育児と）幼稚園往復途中のできごとなどあまり話さない。誰かが話しだせば話す者もいるが自分から話しだす者が多い。
- 話し合いや、お話をすることよりも字をよんでくれという者が多い。（二年保育児にも見られることであるけれど二年保育児は字もよむと同時に画面にすいこまれるようにとびついて見る者が多い。）

#### (実際例)

×一人のこどもが近所に火災や近所の人々のようすなどをある時は新聞でみて電話にむすびつけて話すところが「あっさりと」そ日常生活の中でゆきあたる。又物を批かくしたり、（詳細は略す。）

### 全般的な

### 一年保育児

1. 自分をとりまく周囲のこと気につかいすぎる。（友達が見ているとか、泣いていること、けんかをしていること、わらさをしている場合など）一人で遊びを選ぶことができない者が多く、共同遊びをすることも少い。
2. いつも先生の指図を待っている状態が見えたり、自分の行動を一々先生に報告しないと気がすまない者が多い（砂場に行ってもよいか、便所にいってもよいかなど）
3. 先生と一緒にあそび（生活）することを非常に喜ぶ。
4. 遊びにも行動にも男女差が目立つ。
5. 生活全般にわたって「ぎごちないようす」が見える。
6. 他人に見られるほどめられたり、先生にほめられたりすること非常にのぞんでいる者が目立つ。
7. あの子がどうした、この子が………と他人の行動が非常に気にかかるて自分の生活をかたくるしくしている者が多い。（家庭にある母親がいつも「いい子でほめられるように」とか二年保育の人達にまけないようにと、ほげましている家庭もある。）
8. 先生の注意を「おこられた」と非常に神経質に考えているこどもが目立つ。

### 二年保

1. 周囲のことを気にしなを安定感をもってながめ生活を楽しんでいる者が
2. 共同遊びがしぜんにで
3. 先生の指図をまたないることを全々意識しない
4. 先生のいない、見えな
5. 男女差があり目立たなど」して面白そうに遊
6. 生活全体に「ゆとりが

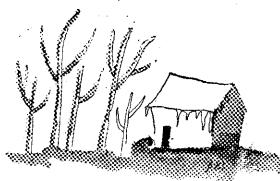
#### (実際例)

- 友達が自分の席に座っていたときなど、どうしても椅子に腰かけない。五月に鉛筆りをつくって持ちかえった際となりの友達のとまちがえて帰ったので「あした取りかえましょう」という先生の言葉をどうしても受け入れず母親と一緒に友達のところにかえに行つたこどももいる。
- お弁当の時お箸を忘れたこどもに用務員室まで取りにやらせることで先生もこどもも非常に神経をつかった。
- 毎日の生活の中で「ゆうづ�性」を勧かせて機敏な動作をすることも少い。（二年保育児と比べて目立つこと）
- ×毎日の生活に「ゆうづ�性がありすぎて」先生のお手伝いをしたり、作業のおくれている友達の手伝いをしているのに自分の仕事が完全に終わっていないことに気づかない者もいる。（この項は14頁実際例につづく）

#### (実際例)

×朝登園してから先生を見つおいてから自分のあそびを実際にゆったりとのびやかに×忘れものをしたり、何か必図できもちよく友達にかし中よく使うなど、実際にスム×全園児が集合する場合などを集つたり、のびの×全体集合の場合など、はやりまだ見えない友達をさ生活をみだすものもいる。

# はなし言葉の指導について



長谷川朝子

ことばは社会生活における重要な用具であるから人の前でも素直に恥ずかがらないで話ができるように指導して行かなればならないと思ひます。しかも自分の考えを正しく他人に伝えたり他人の意志を正しく理解するという事はことばをながだらとして行われるのであって望ましい人格を育てる事と切りはなす事ができません。ところが私共の住む東北は一般に話を事を好み、しかも他地方の方にくらべて発表能力の点でも劣っているよう思われます。東北地方の者が何故発表能に欠けているのでしょうか。いろいろの原因があると思いますが、

1 代々人の前で発表する事を好みない親によつて育てられてきた。

2 発表好きな事を「はしたない」として、「人の前ではおとなしくする」「そんな事をいふと笑われる」というまちがつた言葉のしつけをうけている。

3 たまたま発表型の人があると、発表の不得手な人々はかけでいろいろと批評する。  
4 気候の関係から家の中にこもりがちな生活をする期間が他地方に比較して長い。従つ

て人と話し合う機会も少なく話す事の修練の度が減少している。

5 発音が悪いという事を自覚している為、会の場所に出ると劣等感を抱いて発表意欲が減退する。

こうした環境の中に生をうけて育った児童が素直に子供らしい態度と話しぶりで話す事ができるようになります。どのよう指導したらよいか、私の実践した事を述べてみます。入園当初私の組に入ってきた三十三人の児童について観察した記録を見ると左表のようになっています。

① 全員揃って順に名前をよべば返事をする	31
返事をしない	2
② 遊んでいてもよべばハイと返事をする	6
ナンダイとかんと返事する	5
返事をしないでふりむく	18
反応がない	4
③ 自分からすゝんで話しかけてくる (内容がわかるように委しく話す)	4
”(二語文程度)	6
話しかければ返事をする (一語文)	8
話しかければ首をふる	11
全然反応がない	4

このような子供達にどんな言語指導をしたか。

1名前をよばれたら返事をするという事についてみると、全員同じように名前をよばれ

てゐるが、その時に自分の順番のくるのを待ちかまえているので返事ができるが、そうでない時にはちよつとふりむくとか「なんだい」と云つて「ハイ」と返事をする数はぐっと少なくなつてゐるので「ハイ」と返事のできた時には、ほめてやる。

2朝のあいさつ「お早うございます」といふ便りに出席の印をつける時、登園の途中のことなど簡単に話し合いする。帰る時の挨拶「さようなら」をする。

あいさつは子供の時から強いなくても大人になれば自然にできるようになるので、教える必要はないという説もあるが、愛情の現われとして自然に出やすい時機にその表現の方法をしらせて、それを行う習慣をつけておく方がむしろ自然であると思います。

3 話し合い

○毎週月曜日に生活発表の時をもち、昨日の

日曜日に遊んだ事などを話し合う。

なるべく多くの子供に発言させるために教

師は幼児の顔の動きをみていて話せそうな

ようすが見えた時にさそいかけて話させよう。「友達の話を終りまでききましょう。」「話す人は友達によくわかるようにはつきりいいましょ」と約束する。

○ラジオの幼児の時間、月曜日と火曜日の「お話でてこい」の放送をみんなで聞く。

その後で今きいた事について話し合つてみ

た。ラジオから流れる話は話す人の顔も見えず抽象化された一面的な刺戟であつて親しみを感じにくいで、聞いたことのある話とか紙芝居で見たことのある話の場合は興味をもつてきくが、そうでない時には、教師が適切な解説を加えて共に笑い共にきくようにする。

6恥ずかしい為に話のできない幼児には同じように内気な友達と一しょに遊ばせるようになつた。小さい声で話し合つてゐるうちに自分の話した事が友達にわかつてもらえたという喜びは「又話してみよ」という気持ちに發展し発表意欲を高める事に役立つよう思ふ。

7 テープコーダーを借りて来て自由に遊んでいる中で録音しすぐ再生してきかせた。いろいろの雑音ではつきりわからない中から、テープコーダーのそばに寄つて来て教師に話しかけた子供の声がはつきりと聞え

て來ると、非常に興味をもつて話してみようとし、こんどは一人々々の声を録音して

声をまねていわせた。この事については大

き興味をもち、話すの不思得手な子供も

「又あれをしよう」と催促する程であった。

5ごっこ遊び、買物ごっこお客様ごっこお店やさんごっこ等で話す必要を自身で感じて話すようにした遊びに興味がのつて来ると実際にいきいきと話し出す。こういう時が最も多く語のうを取得する機会であると思

います。

○紙芝居、人形芝居、灯など、見る事を楽しみ乍ら、話をきき、その後で今見たことについて話し合つてみた。

○絵本や記録写真を展示して話し合いのいと

ぐちを多く与えるようにした。

4リズムの自由表現をさせながら動物のなき

きかせた。自分の声をきかれた事に対する

驚きと興味とで大ぶ話そうとする意欲を高めたが、テープコーダーがないので二回しかやつてない。

## ○方言流行語、乱暴なことばの取扱いについて

1 方言は非常に多くそれを神経質に矯正すれば却つて言語活動を鈍らせてしまおそれがある。それで最初は教師も或程度方言を

使つて幼児のことばの仲間入りをしているが幼児は言語の習得期にあるので教師はだんだんに正しいことばづかいを示して子供のことばもむりなく純化するよう努めている。方言ではないが、ていねいな言葉づかいとはき違えて、何にでも「お」をつけたり敬語を使わせるのは不自然である。方言といい敬語といい、ことばづかいをやかもしく云うよりはことばの内容を問題にすべきであつて、真実を語る事がのぞましく、子供らしく、思つてゐる事を語らせるようにしたい。

これは時期がたてばいつか消えていくものでそれ程心配しないでもいいと思う。

然し流行語等を使う子供がある限られた地域の子供であるという事は、人格を育てるに密接な関係のあることばの指導の上で考慮しなければならない問題であると思う。

2 他人に云つてはならない事は子供の前で話さない。何でも「これは話していけないよ」と云われたのでは子供の話題がなくなり子供はおどおどしてしまう。

3 明るい気持で思った事を素直に話させるよう日常会話でも注意する。

4 子供の前で子供が話しだした事をとりたてて云わないこと。

「この子は人の前に出るとちつとも話をしないのですよ、うたならうたうのですけれど」と両親が揃つて云つていた子供は在園一ヵ年間何も話をせずに修了したのです。

それでも、うたは皆の前で一人で得意になつてうたうのです。こういう実例をあげて

話し協力してもらつていて。

1 自分の子供をよくしたいと思うならば友達の事、組全体の事、を考えるのでなければそれが、通用する事に興味をもつてゐるの

でラジオや流行語の影響をうけてえたいのしないことばを使ってみるのであるが、それを云つた時すぐにききかえし幼児の心を傷つけないで反省させるようにしている。

友達と遊ばせないので、社会性の発達を妨げ、経験も乏しく従つて「話題を多くもたせる」という言語活動を盛にする為の要因がそこなわれる事になる。

2 子供にきれいな言葉や正しい言葉を身につけさせようとしても、それを裏切つてきた家庭訪問等の機会を利用して次のようない

言葉や流行語、乱暴なことばをどんど

ん覚えてつかいたがります。幼児はことばのよしあしよりも、新しい言葉をおぼえ、それが、通用する事に興味をもつてゐるの

家庭や社会の協力がなければその効果は半減されるもので、保育参観日とか誕生会、家庭訪問等の機会を利用して次のようない

「できない」という暗示にかけないように

注意している。

5 子供がする話をきいて笑つたりけなしたり

しない。大人にとつては、ささいな事であ

ると思つても幼児にとつては、大きなショックとなり自信を失つたり誇りを傷つけられたりする事がある。これはひとり言語のみに限らず生活の全般にわたつて、大切な事で、子どもの要求を察してやり、へまな事をしても笑われたりしないといふ事をわからせる。幼児に話したことばの指導をしてみた結果、私なりに次のような事を考えさせられた。

1 経験を豊富にする事は話題を多くもたせる事である。友達とのつき合いもなく家の中ではかり大人と暮しておらず、要求する事は自分で云わなくとも全部大人が代弁してくれるというような生活をしている子供は自然に言葉の必要がないわけである。

2 幼児が自分の云い度い事は自分の言葉で話す機会を多くもたせる事が大切。

3 幼児は同じ話を繰返し繰返しきくので一つの話を繰返してきかせ更に話させてみる。

幼児は話す事が好きである。

4 ことばを物やことがらと結びつけて経験させたことばとして覚えさせ話させるよううに指導する。

5 幼児どうしの交際はお互にことばを訓練し合うよい機会であること。

6 幼児に紙芝居や人形芝居やごっこ遊び等で自然に話をしなければならないような機会を与えてやると共に、人の前で話す事を恥ずかしいと思わないような指導をする事が大切。

7 教師や母親の話してきかせることばの影響が大きいこと。

8 しらすしらすの間に耳にすることばが影響する。お弁当の時「お湯」といって要求していると「よし」という。たしかに父親の云うのをまねているのであろう。

9 幼児の発達段階を考慮して基礎的な指導をしないで早く上手に話させようと結果を急ぐと、幼児は逆に口をつぐんでしまう事が多い。

10 教師と幼児とのラボートがしつくりしてい

ないために消極的な話しぶりを示す事がある。家人が折にふれ「そんな事をすると先生に叱られる」等といつてきかせるような場合。

11 話をしない子供については、焦つてむりに話させようとする事はよくないむしろそういう事は後まわしにして

○安心して集団生活に入つていけるようなんいきをつくる。

○仲間をもつ事によつて意志交換の必要を感じさせる。

○仲間の中でものが云えるという自信をもたせる。

終りに。言葉の指導はよりよい社会生活を営む為に重要な事であるから、長じてからもいつどんな場合にも自分の考え方を堂々と述べ事ができ、人の話を聞く事もできて、よき人間形成の目的が達しられるよう、幼児期におけることばの指導について不斷的努力をして行きたいと思つています。

(筆者は福島第二幼稚園教諭)

# 幼児の言葉からうまれたうた

(4) 鈴木正子

## れんげ



せんせれんげつんだ

(5才児)

### (解説)

全然話をしない子、友達と遊べない子、そんな彼がれんげつみに行った時ぽつんとつんだれんげをさし出しながら言った言葉、そしてそれがきっかけになってだんだん話せる様になった、ありがたいうれしいひとことである。

# かやつり



A continuation of the musical score. The top staff shows a melodic line with eighth and sixteenth notes. The lyrics 'かやつり かやつり うれしいな こん夜 はじめて かやつり だ' are written below the notes. The bottom staff continues the eighth-note bass line.

かやつり かやつり うれしいな

こんやはじめて かやつり だ

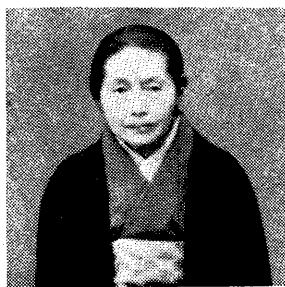
(5才児)

## (解説)

幼児はめづらしいことがすきだ又今年もかやをつる季節になりあのあおいかやが出て来たかやの中で彼はおどりまわってさけんだのである

# 坂内ミツ先生をお偲びして

大熊米子



ふだんでも、半年も一年も、お目にかかる事が多い此頃だったのに、つい先日お目にかかるて、あんなに、いろいろお話して下さった先生が、もう幽明境を異にしていらっしゃる……思い出というには、余りに新しい先生が、私の胸の中に、未だ住んでいて下さるのに、『悲しい』（在りし日の坂内先生）も『淋しい』も、未だひとは感じられない儘に、こおろぎの鳴きすだく此の夜更けに、その日の事を、又しても思つてゐる。……

「先生のお伴をして、何だか、幼稚園の敷地を探していたら、白い木の柵のある、広い広い牧場のよくな所が、見つかった。どうしてだか、私は、其処が、二〇万坪あるのだと判つていて、先生にそれ

を申し上げた。すると、溝の向う側にある木柵を、私は越えられて、首をのばしてのぞいてだけいるのに、先生は、いつのまにか、スッパーと中に入つて、どんどん歩いていらっしゃる。雨だか、草の露に、しど濡れている感じが、未だ足に残つてゐる。……私は、数日前に見た夢のお話を、先生に申上げた。先生は、それを、本当に、本当にお嬉しそうに、うなずかれた。「ホッホッホ、二〇万坪ね」……一寸間をおいて、大和郷の頃は、保育だけに打ち込めた、一番いい時でしたよ」……そして又暫くしてホツリと『未だ死ねませんね』と明るい声で仰有るのだった。「ええ、先生、中休みでござりますわ」私も、のどかに伝えた。「中休みねえ……ずい分働きましたからねえ」しばらく先生は、楽しい事を夢見るよう、微笑をたたえづけていらした。

先生は、いつも前進を考えておいでになる方だった。これでいいとは、決してお気をゆるめられない方だった。此の日、先生は、おつむりの中に、どんな新しい幼稚園の構想をされたのだろう、今にして思えば、先生は、極楽で開園される幼稚園の敷地を探していらつしやった様にしか思えない。……なくなれる、ほんの十日前の

事だった。

「私はね、一生“園”という字には縁があるんですよ、入院する日まで幼稚園にいて、此處に来たら、又園でしょう。大病院は院がつくのに……」武藏野療園に居られた時のお言葉だった。其後、清川病院に移られてからも、すぐ近くが杉並幼稚園だったので、私は意識的に、どなたに道をお教える時も、杉並幼稚園のすぐそばです」とつけ加えた。本当に、園に生き、園を愛された方だった。そして、園長の現職のまま逝かれた事は、私共にとって、せめてもの慰めであり、又、お励ましである。最後にお目にかかる時、私はもう一つ忘れられない事があった。私が此の頃、お手伝いに行っている幼稚園の事をお訊ね下さったので、私は、結婚前には、幼稚園の生活が全部であったのに、家庭を持つと、身も心もかけ持ちで、良心にとがめて……それが悩みですと申し上げた。すると先生は、おからだを大きく動かされて、そうですか？ それは私は違うと思いますよ、家庭や子供を持てば、持つただけの幅が出るから、前より悪いという事はありませんよ、そりゃあ、辛いけれど……』と、

やんと四人のお子様をしっかりと握って、それぞれ方向の違われるお子様の進路を、的確に導かれた先生こそ、本当にいいお母様であられた。立派なお母様であられたからこそ、そして、申し分のない奥様でいらしたからこそ、御家庭の生活が、幼稚園生活にプラスになられたのだと思う。そして、妻としても母としても未だ未だの私は、先生の此の最後のお教えを、私の最後の日迄、真剣に勉強して行かなければならない事だと、深く感じて居る。

### ——先生の六七日の夜記——

## 高問富子

幼児教育のために、尊い心魂を捧げて、坂内先生は、昭和三十一  
年八月九日、六十九歳の生涯を、静かに終わられました。

生前の、先生に接しながら、強く印象されますことは、先生の高潔な御仁徳であり、円満なお人がらでありますて、その御人格にふさわしい、教育理念に徹したお姿であります。

昭和四年四月、当時の東京女子高等師範学校附属幼稚園の教職を勇退されました先生は、大和郷幼稚園に創始者として赴任されました。東京市教育長藤井利督先生が園長、坂内先生は主任保母、加えて、保育実習科を卒業したばかりの私と三名の職員で、五十余名の園児を迎えて、開園式をいたしました。当時の大和郷は、若槻礼次郎氏をはじめ、高位高官の人々が、ずらりと軒をならべ、世にいわれる知識人、文化人の集りでありました。園長先生は公職にありましたが、殆んどお見えにならず、むずかしい、大和郷の理事さん

方の中には、進歩的な教育觀を樹立し、幼稚教育を理解させ、これをおし進めていらした先生の御苦労、御努力は、血みどろ、そのものであります。いま尚、私が先生から受け継いで、生活の信条にしていきますことは、『熱をもって仕事にあたれ。積極的な人間であれ。』人の言に素直に服せ”であります。またその反面先生の人間味は、あふれるような、あたたかさで人を包み、本当に人のためにはその労をいとわず、何處までも出向かれて、お世話をしているにはらっしゃいました。堅実な御人格は、どこまでも、相手の人に貫き通さずにおかない熱意と努力を、傾けつくす方であります。また世間ばなしなどもよくされて、涙をこぼしては、お話を楽しんだものでした。御趣味は、能狂言がお好きのように存じています。つい、先頃まで、遠く福島の方へ、一ヶ月に何回か御出張になつて、保育者のための教鞭をとつていらっしゃることを伺いました時、先生は、私の三男が早く他界しましたので、社会に何ら奉仕することができませんでした。こともの分を、私が報いてやりたいと、一生懸命、老軀ながらつとめています。

この、お言葉をきいて、親心の尊さ、あたたかさと人の心の真にふれたような気がして、私も血のたぎりを覚えて、神仏に手を合わせました。秋分の日に、いまは亡き先生のお姿を、いく冊かのアルバムにおしのびしながら、このような先生の高潔な、あたたかい心構えを、私の胸に蘇らせて、全生涯を幼児教育のために、捧げつくされた崇高な態度に合掌して、先生のお教えをうけた一人として、更に、この道に精進しなければならないと、心に期したものであります。

お ち ば

村 井 ト ミ

(晩秋の雑木林にて)

風も吹かない

風が吹く

だれもいない

木の葉が散る

かさりと木の葉が

くるくるさわいで

おちてきた

まわってく

しづかに下りて

高く低く

土の上

流されて

そうっと見上げて

遠くちりぢり

うつむいて

別れてく

おとなにだまつて

遠くちりぢり

すわってる

淋しそう

「おとなに」はおとなしくの意

## ◇実践記録より◇

# 水族館ごっこ

藤 沢 章 子



### —その経過のあらまし—

#### ○言語

上野水上動物園見学  
種々の魚の絵を部屋に飾つておく。

めっきり暑くなってきたこの頃では、子ども達の活動もいよいよ旺盛になり、殊に戸外での水あそび（水鉄砲、色水屋さん、水を使って遊ぶ、おままごと、砂場など）は大にぎわい。何といっても夏は水である。扱て、これら遊びに出発点を求め、水族館ごっこにまで発展させようという意図なのである。夏は戸外の遊びが活潑になるだけ、また、疲れやすい時でもある。そこでまず「無理なく」ということを念頭に入れて序々に計画的に継続していくようプランをたてる。

#### ○主題

### 水族館ごっこ

#### ○目標

実地に水族館を見学したり、絵をみたり、話し合ったりして魚類への関心を深めると共に、自分達の手でも製作を通して水族館を再現しその社会遊びのよろこびを味わう。

#### ○話し合い内容

魚の種類をあげる。（魚やさんの店、よく食べる魚：）

魚の住処（うみ、いけ、かわ）  
魚のからだ（ひれ、うろこ、えら、はなめ、くち）  
珍らしい形や色の魚（熱帯魚のことなど）  
たこ、いか、かに、えび、くらげ、などのこと。

昆布、海そう、岩

……お話海ひこ、山ひこ、浦島太郎 他。

#### ○音楽リズム

#### お魚の自由表現

おさかなの ようちえん

おさかなの うんどうかい

おさかなの だんす

おさかなの おうち

おさかなの さんぽ

など適当に曲を使つてする。

#### ○絵画製作

#### お魚つくり

#### ○見学・観察

海草、岩

空箱利用の水族館

すいれん、かえる、かめ

入場券 かんばん

模造紙水彩画「海のなか」の共同製作

水上動物園の印象画

○評 価

水族館ごとに興味を持ち、進んで参加出来たか、どうか。

協同製作の場合も協力できたか。

幼児なりの魚の知識が得られたか。

参加クラスメモ。

五歳児、一級三十八名。(五歳児は二級あり、両方同じ行き方をした。)

七月二日より短縮保育になる。

第一期保育は七月十八日まで。水族館開館は七夕以後にする。

経過 準備

五歳児ともなると、その遊びはより活潑、発展的になつてくる。水鉄砲はほとんどあくことなく動いているし、お砂場もいつのまにかおだんごやさんからダム工事に変わつてしまつてある。おままごとはケーキやサラダが

すたれて氷やのみものが大はやり。このように水に大きく関心を持ってきた子ども達に、室内でも海や川の絵を誰にでも目の写るようなどころへかけでおいたり、おゆうぎや歌に波のりや水遊びのリズムを使つたり、海の歌を歌つたりしてより興味を深めるよう持っていく。また子どもの持つてきた方に題材に「かにのかちゃん」の童話を劇作して聞かせたり、また水の大切なことも話して聞かせたりなどする。こうした程を経てある日の保育テーマは「おさかなについて」これも急に与えたものではなく、子ども達の会話から糸口をみつけ発展させたものである。さて、この日の「おさかな談議」はまさに活潑であった。一人一人發表して計三十五種のお魚が陳列された。普段一番よく食べていると思う魚(いわし、まぐろ等)が忘れられてしまつて、エンゼル・フィッシュ、しびれえいなど、とび出す。あんがい昨日食べたお魚の名前がわからない。くらげがお魚だという子どももいた。「おさかなには足があるのかしら? 手は?」と聞いたらみんな即座に「ない」という。それでは手も足もなくてどうしておげるのかしら」といったら皆黙つてしまつた。(これは無理な質問)男の子の一人が「しつぽがあるから泳げるんだよ」と答えた。「おさかなはこはん食べるのかなあとつぶやいた子どもに隣の女の子が「そうよ、こはん食べるのよ」といつたので皆に「お魚は何を食べるのかしら」ときいてみたところ「あぶくまだとか「はつぱ」だとか「ふ」とか「なにも食べない」「お魚の弱虫を食べちゃう(きっと親からきかされたのだろう)」などバラバラな答も面白く思った。海の底には「りゅう宮」があるとほんとに思つてゐる子どもが数人いる。海にも絶対きんぎょがいるという子どもがいてみんなから「うそだ、うそだ」と叩かれた。今日は子どもの話を聞くことに重点をおく。こんなにもみんながたのしく活潑に意見をいい合うようになった成長ぶりを今更にたのしく眺める。私の方も子どもの夢をそれがぬよう「学術的な説明」を避けてあくまでも「話し合い」としてあつさり片附けるよう気配る。

まだ水族館の計画など話さない。子ども達は愈々この「神祕的な世界に興味を深くしたようで二、三日はもつぱらこの種の話題でにぎわつた。私も出来るだけ興味を失わせない

よう答に氣を遣つたり、あちこちから図鑑（やさしい幼年向きのもの）や絵本を雄めてきたりした。

## 見学

水族館行きの日取りがきまる。その知らせは遠足と同じく子ども達に小躍りさせる。水族館というのがどういうものか、更に

「このあいだ皆さんで考えたお魚の他にまだまだ沢山お友達がいますから、よおくみてきましうね、魚屋さんにはない珍らしいお魚も沢山いるのよ。」と含めておく。

さて水族館実地見学の当日、普段の午前中をこの見学に当てたわけで、大きい組は付添なしである。水上動物園に入場してからは級別にみて歩くことになった。

水族館に着いたときは幸い人が二、三人、並んで見て歩くには重なる後の方の子ども達が気の毒なので（子ども達を待たせておいて危険がないことを試めた上）自由に見学させることにした。これは大成功。あちこちの窓に群がり私の存在などまったく意識しないで魚に夢中になっている子ども達の姿に接し、しかも子ども達の自由な会話を聞きこれ

だからである。

「わあ、でっかいにだなあ（かぶとかに）」「とっても光っているわよ。それ」「らんなさいよ。きれいねエ（熱帯魚）」

「赤ちゃんがいるよ。よちよちよち、お母さんのおっぱい飲まないのかな」（細かい魚）  
「デンキウナギ。あつでんきうなぎだ。すこいんだぞお。

側にいつたら殺されちゃうんだから」「たこ、おい、たこがいるぞお」

「どれ、わつ、気持悪い、頭みて」「らん」（なるほどふにやふにやしている）

こんな子どもたちの驚きとうれしさとを表わしたごく単純な会話があちこちでかわされる。

## 話し合い

「わあ、沢山いるのねエ」これ位が幼ない子

どもたちのせい一杯の感嘆詞である。玄関の

近くにあった大龜はとても気にいった様子が気の毒なので（子ども達を待たせておいて危険がないことを試めた上）自由に見学させることにした。これは大成功。あちこちの窓に群がり私の存在などまったく意識しないで魚に夢中になっている子ども達の姿に接し、しかも子ども達の自由な会話を聞きこれ

つて見た。余談だが笛を吹いたとき、金員が

さつと集まつてくれたのはとても嬉しかった。やはり「大きい組」である。子ども達が

沢山の魚に接してどう感じたかは興味しんしだったが、今日は触れない。

午後、お帰りも間近に「先生今日は面白かったわね」という女の子がいたそうね、先生もとても面白かったわ、○○ちゃんは何が一

番面白かったの?」と聞いたたら「だつてエおもしろかったわ」など、笑って答えた。水族

館から帰ると皆夢中になって遊んだ。

話し合いなどでその上疲れさせぬよう気を使う。

翌日は話し合いである。

どんなものをみたか、どんな様子だったか水族館は水上動物園の一部にあつた訳なので話しは水族館にかぎらない。それでも子ども達は結構えいだのべらだのいしだいなどと珍らしい魚を覚えてきて話題にした。殊に熱帯魚の美しさには子どもながらも強く感じたしの子どももいる。「何を感じているのかしら」と、とても興味深く眺められた。

ようでその後のお絵かきにも美しい熱帯魚を描いた子どもが多かった。男の子に人気があ

つたのも面白い。でんきうなぎを描いた子ももいた。大龜は小さい組、大きい組を通じて最も人気があったようだ。魚の自由表現をさせてみると男の子は飛行機のように勇ましいものが多くの女の子はやさしく気どりながら泳ぐ様子、「○○ちゃんのお魚は何でしょう」と問うと「ぼくはとびうおだよ」という。なるほど飛行機の様子に似ていたわけ。同じようなしぶりの子どもにきくと「のこぎりざめ」だとう。女の子たちは断然たいが好きらしい。初めてのときの自由表現に較べてずっと表現が豊かになつたような気がする。やはり実物をしきり観てきたためかと思う。

製作

七夕が終つて愈々本格的な水族館へは入る。ここで始めて皆と水族館についての計画話を話し合う。

この間から実物をみたり話をきいたり、歌を歌つたり、遊戯の中でしたりして、みんな今度は何か作ってみたくてうずうずしていた時だったので、みんな大喜びでうなづく。

早速始めたいという意気込み。そこでまず、今までのこうした経験を経て、子ども達がどんな形で魚をとらえているか、どんなふうな表現をするだろうかという目的のために白紙の薄い画用紙を与える。どの魚がどういう形でどんな色をしているか、ひれが必ずついているもののかうろがあるとかないとか、一切話していない。つまりここにあらわれるの子ども達の「おさかな」なのである。「あなたの一番好きなおさかなを作つてみましょ」というと、どの子どもも勇んで作り出した。大きい組なので中に紙を入れる立体的なものを作ることにする。

先を急いで粗雑にならぬよう、一生懸命作ることに重点をおき一日で仕上げなくてはならないこととする。その日は大ていの子どもがお魚の両面を塗ることだけでせい一杯、翌日紙屑を細かくちぎつてふんわりとお腹を入れるとまたたく見事な魚が出来上がつた。実物をお目にかけたい位だが、四角い魚あり、身体より尻尾の方が大きい魚もあればくじらのような怪物もあり、めだかのような纖細な出来のもあり、中には又本物のようなかつおやとびうおも交っている。色彩は一般に明るく

黄、朱、緑、赤などが好んで使われている。ほんとにこれでは「夢のおさかな」というにふさわしい。みな一様にいえることは誰しものびのびと表現していることである。型や名稱には一向こだわっていないような様子。うろこやえらをつけた子どもが二、三人を除いてぜんぜんいなかつたことも興味深い。とても華やかな色彩の魚を作つた子どもに「これは何かしら?」と聞いたら「たいよ」と答えた。お友達に「君のベンギンみたいじゃないか」といわれ断然憤慨「ぼくのまごろだよ。とても強いんだから」と大いばかりで答えた子どもいた。

とにかくも個性を盛つた「ゆめ」のお魚が出来上がつた。一人一人の性格を知つて眺めると一応楽しい。なお魚のお腹に紙屑をはさむことはむずかしいかしらと多少懸念しているのだがこれが一番おもしろかったらしい。乱暴に作つてきた子どもでも「おやおやお腹が見えちゃうわ」というと笑いながら一生懸命直してきた。裏、表、色を違えてしまった子ども二人程いたが、大抵の子どもはよく分つていたようだ。

## 知識

ここで一通り「ゆめ」が出来上がった。今度は水族館の目的を真面目に考えてみよう。それは幼かない子ども達にも幼かないなりの魚の知識を知らせてることではないだろうか。或る程度正しく知ることは大切なことである。

そこでまた話し合いの機会を持った。今度は私が中心に話を進める。この間の子ども達の話を参考に、魚には海にいるものといたるやかに住むものがあるということ。魚が何を食べて生きているかということ。魚のからだはどういうふうになっているか。どんなふうにして泳ぐかということ。海の底はどんなふうになっているか、暖かいくには色や形のかわった魚がいるということ。魚によって色々や色が違い、まぐろのように大きいわしはないことなど、苦心した表現で聞かせる。少々むずかしい事だったが童話的に話したり、絵を書きながら話したりしたので、大変熱心に聞いてくれた。すっかり神秘の世界に巻き込まれて、普段しないような顔つきをしてしまった子どもも沢山いたし、「せんせい、お魚は寒くつても風邪を引かないのか」という質問な

どとび出してますますのしかつた。

これで大分目的が達せられた。後は正しい知識をもってなるべく本物のようなお魚を仕上げることである。

## 水族館あそび

いよいよ魚ネットも本物になってきた。

金魚鉢の金魚を長い間「研究」していた子どもが「先生、金魚のまわれ右してみようか」といつてくるとまわってみたりする。今までただ絵をみていた子どもが「海の方が一匹魚がいるのね」といつたりする。もういいが海にいるなんていう子どもはないようだ。家庭でもきっと「これは何かしら」と一応考えるようになつたに違いない。いわゆる「物しり」でなくともよいのだから「常識」は…と思う気持が半分の子どもには理解されたと思っている。

さて、そこで皆の好きな魚を作らせることになった。要領は前と同じ。結果は $\frac{1}{3}$ 以上の子どもが「ほんもの」の特徴をよくとらえていた。ぶり…なるほどぶりだ。かつおはかんで。

この魚アームでお遊戯もさかんに魚あそびをした。前記したように「おさかなの幼稚園」になつた。要領は前と同じ。結果は $\frac{1}{3}$ 以上の子どもが「ほんもの」の特徴をよくとらえていた。ぶり…なるほどぶりだ。かつおはかんで。

「おさかなかでは何が一番早く泳ぐか」との問題おらしく、とびうおには動きがみられ、おしゃれなエンゼル・フィッシュはお出掛けの

ような恰好で、それぞれ上出来。でも集まつたのをみたらたいが多すぎる。

たいは表現がやさしいのだろう。でもこれでは水族館が半分だいやさんになつてしまつたのは誰も喜こんで参加したこと。余り製作の好きでなかつた子どもまでがこのブームにあおられて涙ぐましいばかりの作品を製造していく。三日程して幾種類の魚が出来た。くらげやかになど作った子どももいた。実際に見てきた龜が子どもたちには忘れられずボール紙を与え私もビンをさすところを手伝つたりしてほんもののような龜を協同製作でこしらえた。

この魚アームでお遊戯もさかんに魚あそびをした。前記したように「おさかなの幼稚園」ごっこをしたり「運動会」をしたりして楽しんだ。

だんだん動きがマンネリズム化された傾向、

もあるようなので題材を変えなるべく豊富な動きが出来るよう気を遣つた。

次は各自家庭から持ちよつた空箱に色を塗つたり、海草や岩などの附属物を付ける仕事。この日は特に子ども達の状態が良く独創的な『附属物』が多かつたことは嬉しかつた。

赤や朱の色紙で「サンゴ」を作つたり、「たこのお家」を作つたり「あぶく」を描いたり、海そつや水草にも種々変わつたものがあり面白かつた。お魚のお友達をつけた子どもいふ。面白いのは二枚の紙でお魚を作りのり代表端をとめたもの等。これは立体的でお魚のひらひら泳ぐ様子が非常によく表現されてゐた。

箱の上の題字も自分達でうまく書いて掲げた。書けない子どもには手伝つてあげる。細い造花用の針金で魚をつるすのだが、これはむずかしいので私が出来た子どものからつるすのを手伝う。子どもたちは一生懸命作つて大喜び。一方空箱が沢山ないので「ゆめのお魚」はみんなで相談して大きな水族館を作ることにする。丁度ローカーの上に張れば子どもの目の高さにも適当なので、そのため模造紙を用意する。

## 水族館に招待

水族館開館の前日は準備に大忙がし。

面積も広いので大せいの子どもが皆満足いくようにもなる。ボク描く」と最初にいつた男

「あした、すいぞくかんごつことをしますから、みにきてください」

の子は竜宮を大胆に書きのけてしまつた。「ゆめのお魚」だからそれもよいだろ。岩も海そうもふんだんにある、にぎやかな海が出来上がつた。これをローカーに張り合わせた。級中海のような錯覚がする程、その周囲にテレビを張つたらなお感じがでた。子どもたちがお魚みたいに部屋中を泳ぎまわる。ひもを二筋程通してそれに「ゆめのおさかな」を次々とぶら下げていつた。誰かが「生きているみたいだね、だつて動くもの」といった表現はあてはまる。「ぼくのはここ」「わたしのはここでひもが切れんばかりに引張つたりする。これでいいよ子どもたちの期待が倍加されてきた。

お部屋の隅にはやはり模造紙のお池を作つた。周りに石や草を描いて感じを出す。みんなせつせつと協力。ちつとも笑わない子まで誰かと顔見合わせて笑つたりするほほ笑ましさ。

期待していいた開館日である。いつもより子ども達の登園が早い。どの子も大はしゃぎ、「わたしのをあてて」「らんなさい」とか「これはかれいです。これはたこです、これはさばです……」なんて片つ端から読みあげる子どもいる。みんな集まつてから切符係をきめた。

「早く来ないかなア」とどの子もお客様を喜んで迎えようとしている。しばらくして小さいお友達が見に来た。すぐ一人ずつ手をつないで「御案内」をする。お兄さん、お姉さんぶつて「これいいでしょ」とか「これ○○

です」とか言っている様子はまことにほほ笑ましい。

説明をきいているとあまりユーモラスで思わずお腹を抱えてしまって程もある。小さいお友達がまたうんうんうなずいている様子も

かわいらしく、「あんない、あんない」といながらさつさとまわってしまう子どももいる。「ゆっくりまわりましょうね」というと今度はとても丁ねいに「これね○○なの、あれつこれうろこないや。ほんとうに

あるんだよ」などといっている。他の通りして自分の作った水族館の前へさつさと連れて行き「これじょうずでしようねエエじょうずでしよう?」と相手がうなづくまで何度も聞いている。

「夢のお魚」もあってよかつた。各自思い思いの説明を加えているのである。小さいお友達が一々手にとってみるのを「これはかつおです。おおきいからかつおなのよ」ともつともらしくいう。すると次の子どもは「これはいわしです」と前と同じ魚をそう呼んでいる。これはいいのじゃないかしら。この「御案内」は大そうよかつた。お兄さんお姉さん気分を充分堪能した上、何よりも「話」をしたことが良かつたと

思っている。彼らにしては自分から話をする

(与える)という機会はありませんのだから。皆が観終った後、もう一度お友達の作品

を観る。

そして水族館は終った。

「みんなが一生懸命考えて作ったので、こんなに立派な水族館ができましたね。みにきて下さったお友達もとても嬉しそうでした」

#### 後記

これで一応終った訳ですが、私の経験が何分にも浅く、また研究不充分であるため、各所に未熟な点を残したようには思ひ、お子さんは申しわけなく思っています。

お子さんが非常に喜こんでこの遊びに参加したことは唯一の慰めでしたが、考えてみるともう一步であきらめてしまうところではなかつたかと思ひ、もう少し工夫してもらひたかしらと反省しております。未熟な点御指摘、御批判頂ければ幸甚に存じます。

（筆者は大和郷幼稚園教諭）

増刊発売中

広島大学教授 荘司雅子著

## フレーベルの教育学

上製本カバー付  
A5判  
定  
354  
400円

東京学芸大学附属竹早小学校教諭 渡辺茂江 共著  
東京学芸大学附属幼稚園教諭 安藤美江

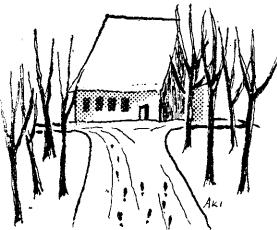
装  
600円  
B5  
予定価  
額  
判  
6  
200円

### 保育のためのうたとリズム

## めだかのくに

株式会社 フレーべル館

# この夏の旅



じのふ 池 菊 関 治 子

## 第三回全国国公立幼稚園 研究協議会に出席して

私たち職員一行八人は、七月三十、三十一

両日の、第三回、全國國公立幼稚園教育研究  
協議会への出席を機縁に、更に南紀井、白  
浜、勝浦の両温泉、那智の滝、プロベラ船で  
の瀬戸内海探勝にと歩を進めたのであった。現在

の職員室のメンバーでははじめての職員旅行  
で、それだけに期待も想い出も尽きない。た

だ恨むらくな、村田教諭、先き頃から健康を  
害されて、この行に同行せられないことであ  
る。

この研究協議会が比叡山でもたれると聞い  
た二月の頃から、「こんどは、みんなで出かけ  
ましょうね」との及川先生のお言葉に、職員  
の誰もがこの比叡山ゆきをどんなに楽しみに  
待つたことであつたろう。

何十年か前に読んだ「虞美人草」の、宗近  
さんと甲野さんとの、今では見られないよう  
な明治時代の呑気な対話で、肩をそびやかし  
ているいやに頑固な山、と印象づけられてい

た比叡山。

天台宗の總本山として、最澄伝教大師以来  
一千百有余年の久しう間、法燈絶ゆることな  
く、また、榮西、源空、親鸞、日蓮など幾多  
の傑僧を輩出した我が国仏教の精華としての

大臣利延曆寺。

また白河法皇をして「朕の意の如くなざ  
るは鶴川の水と双六の采と山法師とのみ」と  
嘆かれた山法師の跋扈で忘ることのできな  
い延暦寺。

いろいろに想像してはこの日のくるのを待  
つていたのであつた。

さて一行は、自分たち主催の二つの幼稚園  
教育講習会を、酷暑の折柄にもかかわらず、  
昨年に勝る盛況裡に済ませ、二十九日に東京  
を立つた部隊、二十八日に立つたもの、別の  
途から集まる人など出立は一緒ではなかつた  
が、二十九日夕刻、比叡山の宿房第一号室に一  
同は会した。期せずしてみな東部坂本からケ  
ーブルカーを利用して登山したのであつた。

半空に聳え立つ老杉古松、鬱蒼とした原始  
林、森厳にして静寂そのもののようなこの学  
山。山中に点在する堂塔伽藍、下界を超越し  
た冷氣、樹間からかい間見られる琵琶の湖の

景勝。

すべては靈山の名に値した。

今までこそケーブルで八分もあれば山頂に

来られるけれども、その、すげ笠をかぶつて

このけわしい山道を登った天正の時代に、根

本中堂をはじめとしてこれらの素晴らしい堂

宇を、どのようにして建立したものであった

ろう？ これら巨大な諸々の材料を、今日の

ような文明の利器のなかった時代に、どのよ

うにしてこの山頂まで運んだものだろうな

ど、思いは遠い昔に遡ったのであった。

夕刻から夜にかけて、全国からの会員は続

々と宿舎に当たられたこの宿房に参集した。

廊下でお会いする人々は、みなおなじみのあ

る親しい同志の顔ばかりであった。

夜十一時「皆さんお疲れでいらっしゃいま

した。おやすみなさい」の地元お世話係りの

放送に、第一夜の夢をむすんだ。

明くれば三十日、研究会第一日。プログラ

ムは次のよう。

## 一、日 程

第一日 七月三十日

開会式(10・00～10・11)

奏 楽	藤川女子専門学院長 藤川 延子女史	閉会式(2・30～3・00)
挨拶	全國国公立幼稚園長会長 小林 操	自由見学(3・00～)
祝 辞	準備委員長 柳沢 静子	二、研究発表題目および発表者氏名 (内容は別冊研究集録による)
閉式のことば	研究発表(10・30～11・00) 昼食・レクリエーション(11・00～1 ○○)	第一日 一、描画表現の実態と指導の反省 熊本県熊本市立熊本幼稚園教諭 石川 春代
講演(2・30～4・00)	分科研究協議会(1・00～1・30) “文芸雑感” 京都大学教授 伊吹 武彦氏 夕食・レクリエーション(4・00～)	二、幼児の創造性を培う絵画製作の指導 岡山県津山市立東幼稚園教諭 岸藤 文子
葉上 昭澄師	第三日 七月三十一日 暁天講話(6・00～7・00)	三、躰についての実態調査と母親指導の事 例研究 兵庫県神戸市立楠幼稚園教諭 森 操子
森 操子	四、健康の習慣を身につけさせるにはどの ようにならよいか 愛知県名古屋市立第三幼稚園教諭 山本 正	四、健康の習慣を身につけさせるにはどの ようにならよいか 愛知県名古屋市立第三幼稚園教諭 山本 正
講演(1・00～1・30)	第二日 朝 食(7・00～9・00) 研究発表(9・00～10・30)	第一日 一、私の園を語る ゆく子ら
昼 食(11・00～1・00)	分科研究協議会(10・30～11・00)	二、望ましい集団生活(遊び)の中にのびて
“服飾あれこれ”		

香川県観音寺市立観音寺幼稚園長

い方について

たらよいか

二、絵画製作の工技指導の研究

松木ゆきの

東京都中央区立泰明幼稚園教諭  
宮崎 恵子

大阪学大教授 小川 正通氏  
司会

京都市児童院 島津 峰真氏  
司会

三、「はなし」と「ば」の指導について

福島県福島市立第二幼稚園教諭

滋賀県近江八幡市立八幡幼稚園長  
三長きみ江

北尾 茲之助

三、分科会による研究協議会

長谷川 朝子

○教育要領にしめされた「社会」「自然」  
の基本的な考え方について

○幼稚園教育要領から考えた望ましい単元  
はどのように立案したらよいか

○一年保育児並びに二年保育児の教育期  
間の違いと年齢差を考慮した指導計画

第一分科会 第一日 七月三十日

第一分科会 指導者

奈良女子大学教授 富永 正氏

第一分科会 指導者

大阪芸大教授 功刀 嘉子氏

四、講演

奈良市立飛鳥幼稚園園長 奥村 正司

大阪府枚岡市立枚岡幼稚園園長 藤井 千代

1、文芸雑感

京都大学教授 伊吹武彦氏

2、服飾あれこれ

藤川女子専門学院長 藤川延子女史

○幼児の自主性を育てるのはどのように  
したらよいか

○幼児にのぞましい集団生活をさせるた  
めの指導方法はどんなにすればよいか

○社会性を育てるための保育形態につい  
て

第二分科会 指導者

第二分科会 指導者

姫路大教授 守屋 光雄氏

1、文芸雑感

京都大学教授 伊吹武彦氏

2、服飾あれこれ

藤川女子専門学院長 藤川延子女史

大阪市大教授 黒丸 正四郎氏  
司会

和歌山市立岡山幼稚園園長 樋口 正子

1、文芸雑感

京都大学教授 伊吹武彦氏

2、服飾あれこれ

藤川女子専門学院長 藤川延子女史

○いわゆる「問題児」の正しい観方と教  
育

○幼児の協同性を培うにはどのようにし  
て

「いつも主催ばかりしていてゆっくりするこ  
とがないから、こんどだけは全くのお客様に  
なって、のんびりと参会しましよう」とは誰  
いうとなく申し合わせた一同の願いだった。

あり態に言えば、研究発表や協議会での一言  
一句もなおざりにしないで克明に勉強してこ  
よう、という気構えではなく、見学観光を兼

ねて、大局からこの大会の空氣を吸つてこよう、みんなの中へ顔を出して懇親の意味も果してこようといった気持で東京を発つたのである。だから、研究発表の一々についてや協議会の諸問題に関する記録も感想もぬきにしよう。それによると、その余裕もない。ただここに書きとめておきたいのは、この酷熱にもめげず、各研者は、研究物や図表の数々を、この山頂まで持参せられ、日頃の研究を熱心に発表せられたこと、参会者もまたそれらを、熱心と親しみの間に聴取せられたことである。

第二日の閉会を待たないで、若い方たちは琵琶湖めぐりへと連れ立って先発され、及川先生と私は「服飾あれこれ」の御講演を割愛して、もときた道を一路京都の宿大浦旅館へと下山だったのであった。宿に着いたのは日盛りの三時半。

京都は暑いところときいていたので、まして日盛りのこの時間では、さぞ堪え難いこと覚悟してきたのに、これはまた思いのほかで、宿の窓下を小川が流れ、その川には京染の水洗いらしく、数条の反物が川底に流れいて、その上を吹いてくる風はまことに

涼味満々たるもので、意外の扱いものであつた。宿の女主人また、まことに気もちのよい応接、接待で、旅中、この宿が一番居心地がよかつたと述懐したほどであった。

夕刻、琵琶湖めぐりの一行と、四ツ谷幼稚園の佐久間先生、新宿幼稚園の黒田先生とを加えて、一行は十人と賑わう、よる京極、祇園などの町をさまよう。

桂離宮拝観、八月一日。午前十時、車をか

つて、兼ねて許可を頂いておいた桂離宮拝観にとこの宿を後にする。

殿舎林泉の美、流石は東洋一。今をさる三百三十年の昔、豊臣秀吉が、正規町天皇の皇子孫八条の宮のために造営したものとさく。そぞろにその当時の文化を偲んで驚歎おくところを知らず。

愛珠幼稚園見学。桂離宮の拝観を終えて直ちに大阪なるこの幼稚園を見学する。明治十二年五月、我が国第二番目の幼稚園として創設された府立模範幼稚園の遺産を同園の廢園

の中央部に位して本園はまた大阪文化の中心地でもあつた。したがつて、口からの粹を極めた御馳走をも満喫させていただき、御厚意を深謝して、一部は大阪城へ、一部は宿へ

と、ここを辞した。

大阪での一夜は流石に暑かった。気温はまさに三十六度。真夜中にも汗を拭うこと數たび。

この旅行の計画から宿の交渉、切符の買ひ

園とは姉妹の関係にあり、年月から言えれば妹で、その包藏する史実の量からすれば関東大震災すべてを鳥に帰した我が園と比べてはまさに、こちらが姉園の感じである。

現園長中村道子先生は、この園の歴史を自

の幼稚園史にとって、如何に貴重なる史料で覚せられ、伝承された数々の遺産が、我が國あるかを痛感せられて、幾多の困難を排除し、これらの貴重な資料を蔵するための鉄筋の倉庫を建立された。そしてその史料の整理系統づけに日夜努力せられつつある。私共一行は先生のご熱心なる説明を伺いつつ、これら

方一切は、主として旅行馴れたお若い富櫻さんと関さんとがして下さった。この後々までもこのお二人にお世話を願うのはお申しわけない、ということで、この日あたりから、その日一日の一切を計画し世話し始末する当番というのをきめた。若い方々はこれを「ま

さま」と呼んだ。当番などといふぎこちない名ではなくて「まさま」とはまことにやわらか味のあるいい名前だと感心する。今日の今まで、何から何まですべてお世話になって、人後に悠々とついていた私も、これでは相済まないことを発奮して、明日は「まさ

かく眺められる民家のただ住い、畑のみのりなどにも感じられて、東北産の私は、いくど感慨に耽つたのであった。

浜口駅着。直ちにバスで白浜温泉の美浜荘に着く。

こここの温泉街は、昔から、西の別府、東の熱海、と共に、大都会をかかえての観光地として有名である。太平洋の黒潮の打ちよせる白砂の長汀は、明かるく強い真夏の陽光をうけて、南国的な情趣を育し、その美観には思わず感嘆の声を発したのであった。海水浴場としても絶好の海である。少憩の後一同で観光バスを駆って紀井半島を一周する。

千畳敷、三段壁太平洋に突出したこの半島の海岸線は、入江や岬の出入が著るしく、正に長汀曲浦の形容そのままの風光である。い

巴斯の最後のコースである。硝子張りの大きな水槽の中で、海老の貝採りを眺めさせる設備はごく近頃できたらしい。

また附属の水族館には大きな海龜やその他の魚介類が数多く展示されていて、流石は南国の水族館という感じを深くさせられた。また白浜観光の途中の道々には「はまゆう」という夏白い花の咲く珍らしい植物が至るところにあって、いかにも南国らしい情趣を感じさせてくれたが、この実験所の構内にも至ることに見られた。この植物は採取を禁じられているとか。

水旅館に隣接した附属の植物園は、暖い気温に恵まれて、バナナ、椰子、サボテン、ゴムの木、ブーゲンビリアなどの熱帯・亜熱帯の植物が多数繁茂していて、いま身はハイ

にいるかのような感じになつたのであった。

二時間の観光を終えて夕刻宿へ帰り、宿望の白浜温泉に浸る。相当強い塩分で体がベト

駅」といふに山と積まれている西瓜、次々に展けてくる蜜柑畠一帯の眺望、ああ紀州みかんの本場だったなあ!! と、あの甘い味と重厚な皮の触覚がふと匂つてくる。そして南国はやつぱり天の恵みの豊かであることを、車窓

平草原、ここは白浜の屋根と呼ばれ、ここからは眼下に白浜湯崎の温泉街は言うに及ば

ベトするぐらい。夜、今日一日の会計などを清算してバトンを明日の「まますさん」の石黒さんに渡す。

八月三日、今日と明日の二日間に亘る和歌山県主催の講習会の講師として、及川先生堀合、村井の三先生は、会場の白浜にこのまま居残ることになり、他の七人は朝八時宿を出で、白浜口駅から海岸線づたいに勝浦へ向かう。車窓からは太平洋の打ち寄せる海岸が見えがくれて、変化に察む眺望は飽くこと知らない。

那智の滝 列車は、今宵の宿に予定している勝浦を通り過ぎて、先ず那智駅まで進行する。ここで下車、直ちにバスで那智山に向かう。山麓に近づくにつれて、数百年来斧鉱を入れないうつ蒼たる那智原始林が眼前に現れてくる。那智神社前で下車、神社に参拝をする。神社の神体なる那智の滝を探勝する。この滝は高さ百三十メートル、深さ十三メートル。日光の華厳の滝と覇を争う天下の名瀑で、華厳の滝は男性的であるとすれば、この那智の滝は女性的であるといわれている。なる程、幅広い絶壁に懸っているこの滝は、途中や下端の壁々を打つて飛散し、その形状は瞬時も一定せ

ず、その飛沫は四散して夏もなお冷気が身に沁みわたる。那智四十八滝の中の随一で、普通那智の滝とはこの滝を指す。滝壺まで足を運び、滝の水に浸つて、しばらくこの滝の観賞を恣にする。連日の日照りで、今日の水量は平時の $\frac{1}{5}$ とにく。水量の豊かなときの壯觀は如何ばかりかと想像してここを辞す。

青岸渡寺 午後の日盛り時、石段坂を四百八十メートル登るときいて、佐久間、黒田の両先生と私は、下にて遙拝ときめ、茶店に休んで、若い方々の帰りを待つ。

やがてバスにて那智山を下り那智駅で勝浦に向かう列車を待つ。那智駅は、白砂青松の海岸にプラットフォームがあるといつてもよい程に海辺にあり、変化に富む海の景勝に見えていたる間に汽車がつく。二つ三つ駅を大阪の方向に戻つて勝浦駅着。勝浦港棧橋より旅館備えつけのランチの出迎えを受けて、勝良莊に入る。

勝浦 南に碧りの海を抱き、うしろに緑の松山を背負つて、こここの宿勝良莊は、一軒の宿で、この太平洋の海を占有しているかのよう。眞新しい普請で更に増築しつつあり、その設備は近代的な至れり尽せりの建築

である。大阪をはじめとして、関西の大都市の観光客を一気に呑まんとする営業の熱意が、宿中に満ち満ちていてサービスぶりは上々であった。

こここの外湯は、自然の大巖洞の中に湧出し、浴しながら、打ちよせる太平洋の荒浪が眺められる。内湯へも家族風呂へもと慾ばつたが、真夏の一泊の旅では、湯上りの熱さがいとおしく、つい、どの湯をも満喫したとは言えない。明ければ八月四日、今旅行最後の日。掉尾を飾る灘崎探勝の日。今日の「まますさん」は一番新人守永さん。早朝から緊張の面持。「まますさん、緊張する?」ときけば言下に「ええ」とはぎれのいい返事。何くれとお世話ををしていただいて朝出立する。おかげのモーターボートは「螢の光り」を奏楽して名残りをおしんしてくれる。

佐久間、黒田の両先生はプロペラ船を断念され、「紀の島めぐり」を思い立たれて、午後までここにとどまられる。

瀑峠 そこで今日の探勝は一行五人となる。汽車は新宮駅で下車し、プロペラ船の乗船場なる熊野川の河原まで急ぐ。プロペラ船とはどのような船だろうかと期待して待つ間

に、定刻の十時には次々と眼前に現れてきた。

普通の屋形船のような船で、たゞ船前の発動機のところにプロペラがついており、進行の爆音とともに風車のようにならるので、この名がついているのである。船の中は椅子式のもの座るものなどあり、私たちの乗船のときは、第一号船のみは椅子式で、他は座り式。若い方々はこの椅子式がとれず第二号船の座り船になったのがいかにも残念らしく、後々までの語り草になつてゐる。

さてプロペラ船は爆音とともに運行をはじめ。登り三時間半、下り二時間の行程。

連日の日曜日で、こゝも水量は平時の $\frac{1}{5}$ とか、清く澄んだ水に川底がわかる。恐れる程の深さではなく、所によつては、手の届く浅瀬もある。顛覆しても先ず先ず命に別条はないとの安心する。

船の進行につれて両岸に迫る山また山の風光に、熊野路は山の国、木の国の感を深くする。

灘八丁とは、いわゆる熊野川の上流、北山川の更に上流の和歌山・奈良・三重の三県境跨にいた田戸部部落附近二軒の渓谷をいうの

で、北山川の激流が淀んで深淵となり、屏風を突立したような奇岩の上には、千古斧鉄を入れない原始林がうつ蒼と茂つて、この碧潭

の別れを惜しんで四散したのであった。一路東京へと急ぐひと、親戚を訪ねるひと、といつたぐあいに。

さて講師として白浜に止まられた及川先生に影を落す。訪ねて見て始めて知つた灘八丁の静けさ、美しさ、えも言われぬ幽邃な絶勝はまことに驚嘆に値する。本旅行の掉尾を飾るこの大自然の南画は、旅の思い出として、いつまでも心の奥に残ることであろう。灘八丁を極めると、船はまたもときた道を下る。熊野路の風景を心ゆくまで満喫しながら四時、新宮の河原につく。直ちに連絡してあつた宿へ急ぐと、ここには、紀の松島めぐりを終えられた住人間、黒田の両先生が、はやおいきを訴える私たちのために、西瓜や初もの二十世紀を冷やしておいて下さった。この西

昭和三十一年度 東日本幼稚園教育 指導講座に参加して、昭和三十一年度東日本幼稚園教育指導者講座は、八月二十八日より三十一日までの四日間にわたり、埼玉大学教育学部を会場として開催されました。

主催は、文部省・埼玉県・埼玉県教育委員会・浦和市・浦和市教育委員会・埼玉大学・埼玉県市長会で、参加人員は二百一十七名。

参加者資格は、都道府県教育委員会または、都道府県知事の推せんする幼稚園の園長、教員、教員養成大学長の推せんする附属幼稚園長、教員という規定でした。

この講座の目的は、幼稚園教育において、当面解決を要する諸問題をとりあげて研究協議し、指導者としての基礎的教養ならびに指導能力を高め、幼稚園教育の改善充実を図ることにあります。

夏休み最後のこの四日間は、八月には珍らしい雨具を離さず、浦和駅よりバスで会場の埼玉大学に通いました。

### 日程・講演

第一日は、開会式、日程説明があり、その後、幼稚園教育要領について、文部省初等中等教育局視学官大島文義氏の講演がございました。講演内容は、幼稚園教育要領の性格、幼稚園教育課程改正の趣旨、幼稚園教育要領の構成と内容、幼稚園教育要領の使い方についてでした。

第二日の講演は、埼玉大学教授山根薰氏による、幼児のしつけ（道徳性の発達）でござ

いました。内容は保育の目標、道徳教育、家庭との協応にわたりました。  
それ以外の日程は、四日間十六時間三十分にわたる班別研究にあてられました。

#### 第一班 指導計画

#### 第二班 健康

#### 第三班 社会

#### 第四班 自然

#### 第五班 言語

各班には次のようないくつかの研究主題が設定され、

それについては、指導者側の周到な調査や資料と参加会員の持ち寄られた資料によって、

すでに研究は歩み進められた形で、はじめてこの会に参加する者も、すぐに考えを本論にすすめて行く事が出来たのでした。

指導者側の基礎研究と万端整った御準備には頭の下る思いが致しました。

この会に参加する者も、すぐに考えを本論にすすめて行く事が出来たのでした。

○主題に即する経験のとりあげかた。

○友だちと仲よくなり協力したりする財

○自然に対する観察態度の助長は、どのよ

うにしたらよいか。  
○幼児が最も興味をもち関心を示す觀察の材料。  
○すすんで話をする機会とその指導。

研究主題と協議内容

#### 第一班 指導計画（協議内容は各班一例を

#### 挙げておきます）

#### 指導者

第一班 埼玉大学教授 遠藤 泰助氏

第二班 同 助教授 野間 郁夫氏

○各幼稚園で年単位の指導計画を立案す

る場合、万事準備すべき資料

#### 第二班 健康

運動や遊びの指導はどのようにしたらよいか。

○健康の増進に必要な運動や遊びについて

#### て

#### 第三班 社会

#### 第四班 自然

#### 第五班 言語

同 助教授 杉浦 正輝氏

第三班 埼玉大学教授 桑原 作次氏

第四班 同 助教授 先崎 正次郎氏  
埼玉大学教授 須賀 正市氏

第五班 同 助教授 須甲 鉄也氏  
埼玉大学助教授 井上 敏夫氏

助教授 渥永 重次氏

指導補助者は、県教育委員会の指導主事、  
指導委員があたられ、司会は地元幼稚園の経  
験深い園長先生方でした。

何れ、くわしい内容は、東日本、西日本合

同の集録が印刷されるそうでございます。一

概に結論には到達出来るものではありません  
が、一応の結論に近づくまでの過程に意義深  
いものを感じました。

報告された協議の結果の一例をあげます

と、健康班の健康の増進に必要な運動や遊び  
についての考え方及び特に注意すべき諸点に  
ついては、健康の概念をよく理解する必要が  
あり、それには、W・H・Oで定義した健康

概念を理解しておくことがよい。つまり  
「健康は、病気または虚弱でないだけではな  
く、身体的にも、精神的にも、完全に良好な

状態である。」というように健康とは非常に広

範囲な意味をもつてゐる、という結論に達し

ました。また、健康と体育及び健康教育との

関係は、体育は身体活動が手段であり、その

目標の一つに健康の保持増進がある。健康教

育は健康の保持増進が目標であって、その一

手段として身体活動がある。両者はあい重つ

ている部分の多い教育である。このように根

本的な考え方をよく整理致し、健康の増進に  
必要な運動や遊びにはどんなものがあるか。

その利用法や、指導上の注意点など具体的な

話合いが活発に展開されました。

昨年にひきつづいての主題も、かなりあり

まして、昨年度の結果が、集録の紙面の都合

上、それ程、詳細なものが載せられず、時に

重複しているよう見受けられましたが、一

つの主題が一時に解決するわけではありません

から、こうして問題を考えてみる機会を持  
ち、協議出来たことは尊い収穫だったと思いま  
す。

主催・地元側の御好意により、埼玉県名物  
秩父おどりのデモンストレーションが行わ  
れ、本場の秩父おどりに接することが出来ま  
した。又、会員一同に手ほどきをして頂き、

班別研究協議の疲れをいやし、各地から遠路

参加された会員の気持を和やかな義理気の中

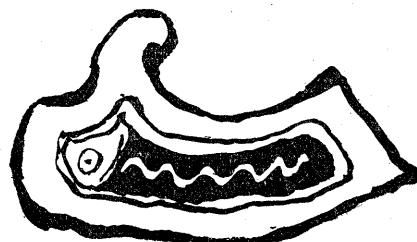
に浸らせて下さいまして、得がたい埼玉みや

げとさせて頂くことが出来ました。

第四日午すぎ、ようやく雲の切れ間から夏  
の夫陽を仰ぎみられるようになつた頃、会員  
一堂に集り、班別研究の報告と質疑応答のひ  
と時を持ち、熱心に展開されましたこの会も  
幕を閉じました。(関) (筆者はお茶の水大附  
属幼稚園教諭)



記録会談座談 明治末期の幼稚園



出席者

島佐新	相小島	澤林賀仲	雅道	佐久間	久田	庄よし	光重	田久	山田	村田	橋井	中居沢	原田	鳥原
子子	子子	(うさぎ幼稚園)	(日大附属幼稚園)	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園
子子	子子	(養徳幼稚園)	(大日坂幼稚園)	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園
子子	子子	(文京第一幼稚園)	(新宿幼稚園)	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園
子子	子子	(千葉幼稚園)	(千葉幼稚園)	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園
子子	子子	(日大附属幼稚園)	(うさぎ幼稚園)	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園
子子	子子	(常盤幼稚園)	(南千住幼稚園)	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園
子子	子子	(お茶の水附属幼稚園)	(お茶の水附属幼稚園)	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園	園園
司会	及川ふみ	(敬称略)												

その際のお話から、当時の幼稚園というものの印象をまとめました。

X X X X

明治末期の幼稚園のようすをうかがうために、九月十七日、都内の先生方にお茶の水女子大学附属幼稚園にお集まりいた、き島沢先生・小林先生・相賀先生・佐久間先生・黒田先生方をかこんで、当時のようすをお話をいただきました。

当時の幼稚園の子どもといふものは、だいたいにおいて、良家の子弟が多かつたようでは非常に丁重であった。特にブルジョワ幼稚園といわれた芝麻布の共立幼稚園においては、子どもは人力車で通い、幼稚園につくと、車夫にだきおろされて、おつきの女中といつしょに挨拶をするというありさまでした。園長先生は、いつも子どもが登園する前に玄関に出て迎えており、つくと「よくいらっしゃいました」と丁重に挨拶していた程度であった。おつきの者は、ぞうりをきちんと揃えて下駄箱にしまい、先生は子どもにつきそつて部屋まで連れていき、先生すらも子どもにあつた様子で、家庭の豊かな子どもが多く、朝はひとりで来る子どももあつたが、大部分はおつきの人がついていつしょに登園したよう

であります。

その頃の先生の様子は、髪は当時流行の二  
〇三高地型で高く積み上げ、長袖の着物には  
かま、ぞうりといういでたちであった。近頃  
用いられているうわっぱりといふものは、震  
災後に使われるようになつたものです。母親  
はたいてい丸まげに結っていた。子どもは、  
女の子は長いおかっぱの髪をして大きなリボ  
ンをつけており、長袖の着物にへこ帯を結  
び、その上にひふを着て白足袋をはいていた  
し、男の子も同様に着物を着ていました。

このよき服装であつたから、ゆうぎの際  
などにも、遊び室にはうすべりが敷いてあつ  
て、オルガンの音に合せて、女の子は両手に  
夫々たもとをもつてそろりそろりと能のよう  
に歩いたもので、今のように活潑に歩いた  
り、とんだりはねまわつたりすることは全く  
しなかつた。男の子も、女の子といつしょに  
静かにしていたものであり、だいたいにおい  
て今のように騒ぎまわつたり、いたずらをす  
る子はいなかつたようです。ゆうぎは  
大むね手先だけを動かしてするものであつた

"おはようのうた"

先生おはよう

が、かごめかごめとか、すいすいすつころば

しなどのわらべうたは、その頃からあって、

現在使われているものと殆ど變つていないよ  
うであります。

保育室の様子は全く小学校的な形態であつ  
て、教壇はなかつたが、二人ずつの机が二列  
に前むきにきちんと並べてあり、部屋の隅に  
オルガンがおいてあつた。壁には装飾的な作  
味で既成の額がかけてあり、子どもたちの作  
品をかざることはしなかつたのです。

内容的に見ても、幼稚園の一日は小学校に  
似ており、時間割がたてあって、「一五・二  
〇分位の単位の時間が一区切りで、種々と先  
生の計画に沿つて行われるようになつてい  
た。その計画は殆んど主任の先生に任せられ  
ていたようであります。

かりに幼稚園の一日を眺めてみると、先ず  
朝の「会集」によつて始められていたと思わ  
れる。子どもたちは机のところにきちんと並  
んで、"おはようのうた"をうたつた。

"べんけいのうた"  
天下の名器に逢わばやと  
よなよな五条の橋に出で  
五百九十九本日の  
太刀はべんけいのうすみどり 云々  
"くさり"  
つなげやつなげや手のくさり  
つないでくぐれよ わの中を  
くぐらばやがても…………となる

皆さんおはよう

今日も楽しくあそびましよう

それから一日の始めに注意したいことを、主  
任の先生が三・五分話すのであつたが、話の  
内容は、例えれば言葉遣いについてなどで、修  
身の時間のような教訓的なものが大部分であ  
つた。その後唱歌の時間となつてうたをうた  
つたが、当時のうたは言葉が難しくて、耳から  
きいただけでは大人でも意味のとりにくいと  
ころがある程であります。従つて歌詞が難  
しいから一つのものを長期間使っていました

まなべやまなべ みことのままに

つとめやつとめたゆます うまず云々 うたの時間がすむと全員外に出て、ブランコとか砂場などで二〇分位あそび、次の時間が来るときりんチリンと合図の鐘がなって、集まって部屋に入り、その日の予定された仕事にとりかかるのであった。仕事の内容は主として積木・板並べ・折紙などであつて、一週間の予定が重らないようになつてありました。例えば積木をするときには、二人ずつ並んだ椅子に腰かけた子どもたちは、当番が戸棚から出して来て皆に配るのをおとなしく待っていた。当時の積木は恩物を使用していたのであり、一人分ずつ一つの箱におさめてあつた。幼稚園によつては、一組の中に年長児と年少児とのいる複式の組編成をしており、その場合は年令によつて異なる積木を使つたものである。積木の取扱い方は非常に丁寧に大切に扱い、箱から出すにも一定の作法があつて、先生の号令に従つて一斉に行なつたものである。皆が積木を出揃えると、先生が

「家（或は汽車など）をつくりましよう。」とテーマを与えて作らせた。また次に「好きな椅子に腰かけた子どもたちは、当番が戸棚から出して来て皆に配るのをおとなしく待つた。出来ない子どもが三・四人残り、先生が手伝つてあげてしまう間、他の子どもたちはいたずらもしないで静かに待つていた。一日の中に予定される仕事はその他に豆細工・織紙・南豆玉とおし・ぬいとりなどがあり、一人分ずつ一つの箱におさめてあつた。幼稚園によつては、一組の中に年長児と年少児とのいる複式の組編成をしており、その場合は年令によつて異なる積木を使つたものである。積木の取扱い方は非常に丁寧に大切に扱い、箱から出すにも一定の作法があつて、先生の号令に従つて一斉に行なつたものである。皆が積木を出揃えると、先生が

「家（或は汽車など）をつくりましよう。」とテーマを与えて作らせた。また次に「好きな椅子に腰かけた子どもたちは、当番が戸棚から出して来て皆に配るのをおとなしく待つた。出来ない子どもが三・四人残り、先生が手伝つてあげてしまう間、他の子どもたちはいたずらもしないで静かに待つていた。一日の中に予定される仕事はその他に豆細工・織紙・南豆玉とおし・ぬいとりなどがあり、一人分ずつ一つの箱におさめてあつた。幼稚園によつては、一組の中に年長児と年少児とのいる複式の組編成をしており、その場合は年令によつて異なる積木を使つたものである。積木の取扱い方は非常に丁寧に大切に扱い、箱から出すにも一定の作法があつて、先生の号令に従つて一斉に行なつたものである。皆が積木を出揃えると、先生が

に入れてもつて来ていましたが、共立幼稚園あたりでは、たいていあとから届けられたそうです。重箱の他に茶碗

によそつていただくために、先生はおかいぞえをして、御飯を茶碗につけてあげたり、たべさせてあげたりした。先生が子どもといつしょにおべんとうをいただくということはないで、子どもだけ大事に先に食事をさせてから、先生は交替でどこかの隅で大いそぎで食事をしました。または、子どもが帰ってしまってからいただいたものであります。そして

その頃は、先生たちの部屋、職員室というものはなかつたということです。

このように昼間は丁重に子どもにつかえ、

子どもを帰してからは夜になるまで、追われるよう、翌日の用意を整えるためにいそがしかった先生たちは、初任給は六〇八円だったといわれます。今にすればどの位に当るものでしうか。

明治の末期から現在までには随分世の中もうつりましたが、幼稚園も變つた。その頃の幼稚園の状態を、當時を知らぬ者にもわかる

ように詳しく述べていただけたことは、現在保育にたずさわる身にとりまして、本当に有難く感銘深いものであった。最後に当時うたわれていた天長節のうたを、島沢先生・小林先生・佐久間先生・黒田先生・相賀先生方に思い出してうたつていただき、高橋先生には譜にうつしていただいたが、それを次にのせてこの項の結びとしたい。

天長節のうた

きょうは十一月三日の朝よ

朝日にかがやく日の丸の

国旗はかどなみ ひいらひら

国旗はかどなみ ひいらひら

今は十一月三日の昼よ

おかでも海でもいさましく

打ち出す祝おう ドンドンと  
打ち出す祝おう ドンドンと

(お茶の水女子大学附属幼稚園)

お茶の水女子大学附属幼稚園内  
幼児教育研究会編

A5判270頁  
価格 220円

## 幼児の劇あそび集

お茶の水女子大附属幼稚園において実際子どもたちがよろこんでそんだもの二十数種をおさめたものです。

(本書のお申込みはお茶の水女子大附属幼稚園又はフレーベル館にてお取次ぎいたします)

# 幼児のダイナミックヘルス



岡 本 卓 夫

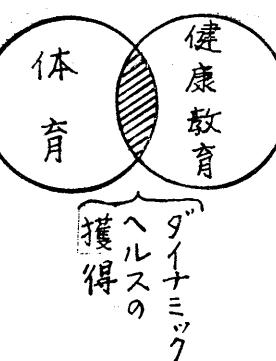
若いは子供の学校教育に於ても  
考えられているのであって、教  
育の目的にも「人格の完成を目  
指し……心身共に健康な国民  
の育成」という事が掲げられて  
いる。特に今日幼児の教育が大  
きくクローズアップしている  
時、子供の健康への関心は就中  
大きいものがある。そして幼稚  
園教育の目的にも亦「幼児を保  
育し……心身の助長……」が掲  
げられ、その目標の第一番に健  
康に関する事柄が取り上げられ  
ている。然もこれ等の目標を達  
成するために具体的目標とし  
て

- (一)清潔、食事、排便、衣服、運動、休息などについてよい習  
慣がつく。
- (二)からだをじょうぶにし、いろいろな運動や動作が活潑に出来るようになる。
- (三)伝染病やその他の病気にかられないようになる。

凡そ何時の世代に於ても子供の健康に関心  
をもたない親達はないであろう。子供が生  
れると、どうかこの子が病気をせずに元気で  
幸福な人間になりますようにと祈るのが世の  
親達の常であろう。そしてこのような願いが  
自然にその家庭に於ける子供の教育への一つ  
の狙いともなっているのである。このような  
四ヶがや其の他の災害から身を守ろうとする  
ようになる。

以上の四項目が挙げられている。そしてこれら  
等具体的目標を達成するための種々の教育内  
容がつくられ、現在実施されている訳であ  
る。が然し、吾々が実際の保育を観察したり、  
又現物の教師達からきいたりした事柄を綜合  
して考えてみると、一般的傾向として(一)(二)  
の項目、所謂前川氏のいう健康教育 health  
education の面に於ては相当綿密な計画がな  
され、それ等を達成するための適切な場が構  
成されていると思うのであるが(三)の項目、所  
謂体育 physical education 的面に於ては充分  
組織的に体系づけられておらず従つてそれ等  
のガイドンスに於ても殆んど適切な方法がと  
られていないようだ。私自身体育の分野  
にたづさわっているので、特にこのように感  
ずるのかも知れないが、仮に行われているに  
しても比較的関心が薄いという事は事実であ  
ろう。吾々が子供の健康という事を考える場  
合子供が単に病気でないとか病気に罹らない  
とかだけで、その子供が健康であると簡単に  
かたづけて了つてよいであろうか。果してこ  
のような子供が本当に健康で幸福なのだろう  
か。私はこのような考え方で健康という事を  
解決したくないのである。このような考え方を  
抱くという事、抱かざるを得ないような場面

に追い込まれているという事は結局教師達の健康に関する概念把握が充分でないというところに原因していると思うのである。元来体育と健康教育とは互に関連し合った関係にあるべきものであつて両者を完全に切り離して考えられるべきものではないのである。特に



幼児に於ては他のあらゆる内容に於ても健康教育が考えられてゆくべきものなのであるが、中でも体育—education through physical activities: Williams T. F.—は身体活動が手段となつてゐるのであるから他の内容よりも関係が大きいのである。そして体育は健康をもととしてより健康な体をつくることに一つは狙いをもつてゐるし、健康教育は、健康へ

の教育であつて健康そのものを狙つてゐるのであつて、同一のものではないにしても本質的には両者は健康 health という事を基礎にして考えられるものである。それは故にこの両者は互に助け合つてゆくようにしなければならないし、又この両者のむすびつきをなくして本当の健康ということは獲得されないのである。即ちこの両者の関連から生れるところの健康がダイナミックヘルス dynamic health なのである。現在の幼稚園教育でいわれている健康は概して体育との関連を考えないか、さもなくば非常に関連性の薄い所謂、健康教育を基礎とした健康であると思うのである。このような概念は消極的健康への概念把握であつて、子供の本当の健康は願われないであろう。もっと積極的な健康、ダイナミックヘルスへの関心を深めねばならないと思うのである。ダイナミックヘルスに就いて D. La Salle は次のように書いてゐる。『ダイナミックヘルスとは病氣に罹らないかつたり、欠陥を持たないというレベルを遙かに超えた資質である。ダイナミックヘルスは個人がその日の最大限の仕事を單に容易であるといふのではなく、能率的に楽しくなし得ることを可能にする資質である。又それ

は個人が疲労せずにその日の仕事を終え尚精力の余裕を持つことが出来るようになる資質である。』とそして又『ダイナミックヘルスをして考えることは個人をその完全な可能性にまで発達させることを助け、その能力を最大限に利用することを可能にする。』といつていふ。本当にダイナミックヘルスは子供達の日々の生活を能率的に楽しく疲労せずに裕々と送らせるものであつて世の親達、殊に幼児の教育にたずさわっている教師達は今一度考えてみる必要があるのでないだろか。私はこれこそ体育から得なければ恐らく他の分野からは獲得されないものと思うのである。然も彼女は『ダイナミックヘルスは健全な基礎の上にのみ築かれることが出来る。斯様な基礎は、有機体が病氣や治療し得る欠陥に患つておらず、栄養が適応していることを意味する。』といつてゐる。それではこのような基礎の上に行われた体育の場(身体活動を通しておらず、栄養が適応していることを意味する)からダイナミックヘルスを獲得するための如何なるものが得られるであろうか、それは先ず

### 一、持久力の獲得である

子供達が走つたり、走つかけたり、跳んだりすることによつて心臓や肺臓の機能が抗

進し、血液循環が良くなり、栄養が高められ（栄養価はその個人の摂取能力に依存しているのであって、このような能力は活潑な身体活動によって得られると思うのである）次第に持久力を獲得する。このような獲得は子供達に余裕ある生活を送らせるであろう。

## 二、筋力が増大する。

子供達はジャングルジムに上ったり、鉄棒にぶら下ったり、トロッコを引いたり、太鼓橋を渡ったり、走ったり、跳んだりすることによつて身体各部の筋力の強さは、子供の生活を能率的に疲労を少なくして送らせるであろう。

三、身体の支配力が出来る。  
鬼ごっこをしたり、平均台を渡ったり、雲梯の上で立つたり、ボールを避けたりすることによつて獲得される。このような資質は急激にものを避けたり、高い所での平均を取る場合の安全生活の面に役立ち、子供達の日々の生活を楽しく安全に送らせるであろう。

## 四、情緒的適応の獲得。

低い組織のボーリングや自口テスト、リズム遊び、模倣物語り遊び等をすることに

よつて、子供達は情操を豊かにし、仲間への所属感や社会性を養い、日々の生活から生れる種々の障壁を除去することが出来る。このような情緒的適応は子供の精神生活を助け、能力を最大限にまで發揮させるであろう。

このように体育の場からダイナミックヘルスへの重要な諸要因を獲得することが出来るのであって、吾々が本当に子供達の健康を願うならば健康教育の面と共に、これ等体育の面をも充分考慮を入れて指導してゆかなくてはならない。殊に幼児期は容易にこのダイナミックヘルスを獲得する能力をもつてゐるのであるから、教師達は旧来の事なれ主義の消極的健康保持に窮々としているので、適切なる場の構成のもとに、もっと積極的健康、ダイナミックヘルスを獲得させるようになればならないと思うのである。

（筆者は徳島大学学芸学部研究室員）

日本女子大学教授 愛育研究所食養部長  
医学博士 武 藤 静 子 著

※A5 210頁 定価 250円 〒24円

第一篇栄養学、第二篇保育所給食の二篇に分かれており、第一篇は基礎知識を、第二篇は実際の調査にもとづいて研究された最もよい保育所給食の方法を説いたものです。

株式会社 フレーベル館

# 知能の診断

(下)

村山貞雄

## 9 知能検査の形式と信頼度

知能検査で幼児の知能程度を診断したばあい、どれくらい信頼度があるだろうか。

現在、或る人は相当高く評価するが、そうかと思うと、きわめて低くみる人もいる。知能検査の信頼度について考えるべきは、まず考えられることは、知能検査の形式にかんする問題である。

知能検査の形式にかんするおもな問題として、個人検査と団体検査の信頼度の問題と、

### 第一表 団体検査と個人検査の相関

比較された個人検査	相関係数	備考
WISC知能診断検査法	.64	東京都幼稚園5.6才
鈴木ビニー式知能検査法(仮称)	.37	東京都幼稚園5.6才
田中ビニー式知能検査法	.72	東京都幼稚園5.6才
点数式田中個別知能検査法	.39	東京都幼稚園5.6才
乳幼児精神発達検査	.46	東京都幼稚園5.6才

(注)調査人員はすべて30人ずつである。

すべて東京都内の幼稚園56歳児におこなった。

作業検査と言語検査の信頼度の問題があるが、今回は前者について述べよう。

### A 団体知能検査と個人知能検査の相関

団体検査の一例として、村山式幼児用知能検査をとり上げて、幼児の団体検査と個人検査の相関関係をしらべたところ、第一表のように高かった。

この結果だけによれば、両者の相関はあまり高くない。

### B 幼児に団体知能検査をおこなうことの可否

幼児に団体検査をおこなうことは、数年前までは考えられないことであった。現在でも幼児にたいして団体検査は無理であると主張する人が少なくない。たとえば、ある保育の教科書では、幼児の団体検査をまったく否定している。

幼児に団体検査をおこなうことが無理であるかどうかをしらべる一助として、十人の臨床心理学者に、つぎの三項目についてたずね、三つのうちのいずれかに解答を依頼したところ、第二表のような結果を得た。

団体検査を幼児におこなうことが無理であるとすれば、その原因をみるために、すなわ

第三表 団体検査の可否

項目	人数
一、幼児に団体知能検査をおこなうこととは無理である。	五名
二、幼児に団体知能検査をおこなうことは無理でない。	三名
三、その他	二名

ち、幼児におこなった団体検査の信頼度が低い原因をみると、昭和二十八年に現行団体検査について調査したところ、つきの内容が考えられた。

一、幼児が友達の答をカணニングする。また、逆に答を友達に教えてやる。

二、団体的にやる一斉作業にのらない子どもがいる。

三、幼児期と小学校低学年と併用できるようになつた検査には、幼児に無理な内容や方法のものが多い。

四、作業が幼児にとって困難なものがある。

五、例(練習問題)をあげて、他もこれと同様にやりなさいといつても、例とそれらの問題の関係がわからぬ。

六、一対一であつたら励まして続行させら

れるような問題でも、団体検査では忍耐心のない者はやめてしまう。

七、幼児の知識の内容がせまいので、一部の幼児には分らないような絵がでてくる。

八、優秀な子どもでも時間制限検査にはまったくかからない子どもがいる。

九、むずかしい問題の中には、児童期の常識を必要とするものがある。

そこで、筆者は、これらの欠点を克服するような団体検査ができるいかということを考

えて、一つの知能検査をつくってみたが、そ

の短所や長所については、今後の調査にまつところが大きい。(『幼児の教育』昭和三十年保育学会大会特集号、峯文閣発行「村山式幼児用知能検査」参照)

C 幼児用団体検査による知能値の低下

団体検査でつぎに問題になるのは、幼児は団体検査をすると損をするのではないかといふことである。

団体検査は団体的な施行法によって標準化

されているのであるから、この心配は一応杞憂であるといえよう。

しかし、団体検査はつねに同人数の団体に

たいしておこなうものではなく、生活年齢や子どもの性格・能力によって、人数を多少加減するのが普通であるから、このことからも団体的に損をするということが實際おこつてくる。

ところで、このように人数を加減する目的は、もしつねに同人数で検査をすれば正確な知能値をだすことが不可能なことがおこるので、できるだけ個人検査の結果に近い知能値をだすためである。ゆえに、団体知能検査は、団体的な施行によるハンディキャップをできるだけ少なくしつつ、多くの人に検査をしようという立場に立つていることになる。

すなわち、標準化は団体的におこなわれてゐるから、平均値からみれば平等であるといえるが、個人的には多少の損をする人もでるという事実を頭にいれて、しかも、このような事実をできるだけ防止しようとしているわけであり、団体知能検査によって一般的に知能値が低くなるということはないが、知能値が低くなる子どもがあるといえる。

それでは、団体検査によつて、知能値が低くでやすい幼児はあるといえる。それで、団体検査によつて、知能値が低くでやすい幼児は、どのような幼児であろう

第三表 団体検査で低く出る幼児

順位	幼児の特徴	人数
1	自我意識が強い 自己中心的である 我がままである	10
2	社会性がない 陰性的性格で孤独型である 友達に好かれないと	8
3	気が小さい 気が弱い	7
4	いたずらである わん白である 乱暴である	5
5	すぐ泣く	5
6	よくしゃべる 自分の思うことをどんどん言う	5
7	甘ったれである	5
8	よくふざける 調子にのる	4
9	動作がのろい	4
10	おちつきがない	3
11	興奮しやすい 情緒が不安定である	2
12	弱視である	1
13	左利きである	1
14	新しいものごとになじむのに時間がかかる	1

第四表 団体検査で高く出る幼児

1	社会性がある 友達に早くなれて誰とでも よく遊ぶ 多勢できるときはなんでも よくできる比較的仲良く活潑 に遊ぶ	9
2	おちつきがない	5
3	神経質である 凡帳面である	5
4	気が小さい 気が弱い	4
5	はずかしがる はにかみやである	3
6	体力が弱い	3
7	卑怯である	3
8	返事をしないでにやにやしている	1
9	強情である	1

団体知能検査で知能値が低くなる子どもがあることは、団体知能検査の信頼度をさげるものであるが、知能検査で、幼稚園や保育所における幼児の現在の学習能力を知ろうとす

る。たとえば、知能は高いように思えるが皆育所における保育全体の効果が低いことがある。たとえば、この表にあるよ

うな子どもは、個人検査をおこなつたばあい、かえって知能値が低くでてしまうという

これをしらべるために、愛育幼稚園、白金保育園その他の幼児について、団体検査(村山式)を施行した結果と個人検査(鈴木ビネー式)を施行した結果と個人検査(鈴木ビネー式)を施行した結果をくらべて、知能指数が二十以上さがっている幼児の特徴を調査した。その結果は、第三表のようになり、社会性のない者、気の小さな者、いたずらで検査にのらないう者などが団体検査の結果が低くでている。

るばあいは、団体検査もかえって有効な点がある。  
すなわち、小学校は勿論、幼稚園、保育所でも集団的な形式で學習することが多く、団体検査で高い結果がでる者は、個人検査でよい結果のでる者よりも、幼稚園や保育所における保育全体の効果が高いことがあり、一方、団体検査で低い結果がでる者は、幼稚園や保

しかも、団体知能検査のやり方は、むしろ団体的な學習のうちではもつとも個人差に気をつけておこなわれる部類に属している。  
なお参考までに、個人検査にくらべて団体検査の結果知能指数が二十以上あがっている幼児についてしらべたところ、第四表のようになに、社会性のある子ども、はにかみ屋の子どもも、一対一の対人態度に欠陥のある子どもな

ことがいえる。このことは、現行個人検査による知能診断法にたいする一つの批判となるであろう。

### 10 幼児期の検査の信頼度

#### A 幼児期と児童期の知能指数の相関係数

知能検査の結果が子どもの成長によって変わらないかということが、しばしば問題になります。外国ではターマンその他の人々による調査があり、わが国でも狩野氏その他の人々による研究がある。

諸調査の結果は、幼児期におこなった知能検査の知能値は、児童期以後にはかなり変化がみられるとする考え方がある。

この調査として、多田淑子氏の協力を得て、四十六名の幼児について、子どもが四歳〇か月から五歳十一か月までのあいだに第一回目の検査をおこない、七歳〇か月から九歳十一か月までのあいだに第二回目の検査をおこなって、その間の変化をしらべた。(検査はともに鈴木ビネー式を使った。)なお、第一回の検査と再検査の間隔の平均は二年二・二か月である。

この結果、幼児期と児童期の知能指数の相

関係数 $r$ は〇・六五であった。この結果は、相関関係がそんなに低いとはいえない。

#### B 幼児期と児童期の知能指数の動搖

また、知能指数が幼児期と児童期では、どちらくらい揺れがあるかということをしらべるために、両者のひらきをしらべたところ、ひらきの平均は約八になつた。この結果からす

### 〔第五表〕 再検査と知能指数のひらき

IQ	N	ひらき	
		$\bar{x}$	$\sigma$
130以上	7	12.71	12.33
129~80	31	8.87	7.11
79以下	8	3.25	1.20
全 体	46	8.42	7.74

### 〔第六表〕 再検査と知能指数の差

1回目のIQ	N	差	
		$\bar{x}$	$\sigma$
130以上	7	-8.14	15.72
129~80	31	+4.10	10.60
79以下	8	-0.25	3.46
全 体	46	+1.50	11.47

しては、知能指数が一・五があつただけで、幼児期も児童期も大体おなじであつたが、知能指数が非常に高い子どもは、児童期になると、幾分知能指数がさがる(知能指数が小さくなる)傾向があった。(第六表参照)

### 11 知能検査の施行条件による信頼度

知能指数の恒常性にかんする問題は、幼児の成長について考えられるだけでなく、児童期と児童期のあいだの知能指数の動搖は比較的小さいといえども、そのときの心身の条件についても考えられる。

もし幼児の心身の条件によって、知能検査の結果がいちじるしく動搖するものであつたら、児童期になるのを待つまでもなく、翌日やつても、かなり違つた知能値が出るかもわからない。もし、これが事実であれば、幼児の知能検査は信頼性がいちじるしくさがることになる。

#### C 幼児

#### 期と児童

#### A 午後に幼児に知能検査をおこなう問題

幼児の心身の条件のうち、もっとも代表的なものとして、施行時間にかんして午前と午後の問題がある。

なお、この調査で全体と

この調査として、二十名の幼児後期の子どもについて、一日の時刻を変えて知能検査

(鈴木ビネー式)をおこなつてみた。すなはち、このうち十人(Aグループ)は、午前九時から十時までのあいだに第一回目の検査をおこない、それから十日後の午後三時から四時までのあいだに第二回目の検査をおこなつた。その他の十人(Bグループ)は、第一回

約二にすぎなかつた。

しかし、実際には、幼児が午後幼稚園から帰つた後や帰る途中に来て検査したばあいにおこないかと心配されることがしばしばおこつては、疲れている様子がみえ、検査をしながら、このために知能値がさがつて出るのは

よう、午前では明瞭にあらわれぬ欠点が午後にはあらわれることがあり、或る種の子どもには、時間的なハンディキャップが考えられる。

B 検査室で幼児に知能検査をおこなう問題における時刻の問題とともに、場所の問題がある。

すなはち、母親のなかには「そんなことができなかつたのですか。うちではよく言えるのに」とか「家ではするのですが、よそではしないのですよ」などといふことをいう者がいる。

これらの言葉は、筆者もはじめのうちは母親の偏見のように思つてゐたが、母親がこのように言つた五人の幼児について実際にしらべてみたところ、そのほとんどが事実であつた。

このことについて調べる補助手段として、

母親にたいして日本保育学会式幼児発達検査の知的発達の問題をわたして、幼児の家庭の状態について解答をしてもらつた後、知能検

査(鈴木ビネー式)をおこなつた。

この結果は、第七表のようになり、午前施行したばあいと午後施行したばあいに、差は

第七表 施行時間と知能指数

Aグループ	第一回 午 前	第二回 午 後	差
	109	115	+ 6
B	117	139	+ 22
C	107	123	+ 16
D	117	122	- 5
E	122	117	- 5
F	118	110	- 8
G	123	124	+ 1
H	117	108	- 9
I	148	148	0
J	107	105	- 2
平均	118.5	121.1	+ 2.6

Bグループ	第一回 午 後	第二回 午 前	差
	112	119	+ 7
B	88	87	- 1
C	116	119	+ 3
D	152	154	+ 2
E	113	111	- 2
F	122	125	+ 3
G	104	101	- 3
H	116	107	- 9
I	118	120	+ 2
J	105	110	+ 5
平均	114.6	115.3	+ 0.7

日の検査を午後二時から三時までのあいだにおこない、第二回目の検査をそれから十日後の午前九時から十時までのあいだにおこなつた。(すべて鈴木ビネー式検査を用いた)

なお、午後にテスト問題を放棄しようとする態度の強い子どもは、午前来たときも、やっぱりそのような態度がうかがわれるが、励ましてもるとやつて来る子どもが多い。こう

いる。特に三歳台児には午後の検査でさがる者がめだつた。

母親にたいして日本保育学会式幼児発達検査の知的発達の問題をわたして、幼児の家庭の状態について解答をしてもらつた後、知能検査(鈴木ビネー式)をおこなつた。

この結果は、第七表のようになり、午前施行したばあいと午後施行したばあいに、差は

約二にすぎなかつた。

しかし、実際には、幼児が午後幼稚園から帰つた後や帰る途中に来て検査したばあいにおこないかと心配されることがしばしばおこつては、疲れている様子がみえ、検査をしながら、このために知能値がさがつて出るのは

よう、午前では明瞭にあらわれぬ欠点が午後にはあらわれることがあり、或る種の子どもには、時間的なハンディキャップが考えられる。

第九表 家庭生活の観察と知能検査  
(出生順位)

出生順位	人数	家庭生活の観察 —知能検査
一番	13	-1.07
二番	17	+9.47
三番	10	-5.20
四番	2	+8.50

第八表 家庭生活の観察と知能検査  
(母親の学歴)

母親の学歴	人数	家庭生活の観察 —知能検査
小学校	3	-5.00
中学	27	+6.00
専門	8	+5.88
大学	8	-2.88

あつた。日本保育学会の検査は、かららずしも知能のみをみようとするものでなく、知識や常識を相当含んでいるから、この調査の結果の解釈はやや複雑であるが、勝手な行動をする幼児、気の散りやすい幼児、あきやすい幼児など、母親による幼児の家庭生活の観察の結果よりも、検査室におけるテストの結果が低く、子供はどのように成長していくか、又どのように育てていかねばならないか、

くる傾向がうかがわれた。(また大学を出た母親にもおなじ傾向があらわれたが、これは、幼児が家庭における教育や文化財にめぐまれて知識や常識が発達していることも一つの原因であろう。母親の理想が高いことも一つの原因かもしれない。)

また、同胞中の順位をしらべたが、有意差はなかった。(第九表参照) 本書を通読し、その特徴ともいえる「児童教育の現場にある者として必要な予備知識、例えば児童の身体的発育の状態や精神的発達の状態を、指導の実際的な面と関連づけた所」ここに本書の価値を見出すが、最後に最も心に残るもの。

それは、本書の全面に、活字の一つにつに著者の人間味豊かな温かく、大きく、広く深い「愛」の溢れていることである。

## 保育 (新刊紹介)

(筆者は愛育研究所員)

書名 保育

著者

お茶の水女大教授同附

属幼稚園長

及川 ふみ

A5判

上製

二二〇頁

三一〇円

発行所

光生館

# 沖縄の生活



## 津 守 真

此の夏、私は琉球大学派遣講師の一人として沖縄にゆく機会を得た。これは教員の現職教育のための夏期講座で、昭和二十八年より実施されている計画で、本年は四年目である。沖縄を訪れた人々が感銘をうけて帰ってくるように、私もまた沖縄を訪れる前に想像していた以上に感動させられたので、その印象などをとりまとめて記してみようと思う。沖縄の印象や、その教育問題については、すでに本誌の第五十卷十二号（昭和二十六年）に牛島義友氏が記され、第五十四卷一号（昭和三十年）には松村康平氏が、第五十五卷一号及び二号（昭和三十一年）には村山貞雄氏が、第五十五卷八号（昭和三十一年）には戸倉ハル氏がそれぞれ詳しく記しておられる。

沖縄本島は大きく三つの地域に分けてみることができる。すなわち、北部（国頭とよばれる）と中部（中頭）と南部（島尻）とであり、それぞれ風物も異なり、社会事情も異にしている。北部は樹木が茂り、風景など本土のいななに似ているが、南部は戦争のために大きな樹木など未だにほとんど見られない。近頃本土の新聞でもしきりに報道されていた基地の問題が最も身近な体験となっているのは中部である。戦争前までは中部は寂しい農村だったそうであるが、現在では商店街が中部にうつった観があり、基地及びそれをとりまく商業を中心とした市がいくつもある。場所によつては、道路の両側が赤や青のベンキをぬつた四角い家が立ち並んで、横文字の広告ばかりのところがある。こんな道筋に入りこむと、これでも沖縄に来たのだろうかと錯覚を起してしまつ。私は沖縄滞在の六週間を南部地方で過ごしたので、始めて中部に来たときには驚いたので

ある。南部の地方はもともと農業と漁業を主とし、首里と那覇（中部と南部との境界にある）とを含めて沖縄人口の半分以上を占めている。島の面積や人口は、本土の福井県や島根県と同じくらいだそうで、本島だけで一、五〇〇方糸、人口六十七万余の小さな島である。日本の一一番南の小さな島なので、忘れられがちになるのである。

始めてこの南の島に足を踏んだとき、まず感じたのは地の底から吹き上げてくるような熱気であった。沖縄でも三十年來の暑さと古考も云われた真夏のせいだったかもしれないが、日を過ごすにつれて暑さは加わり、八月下旬に台風がくるまでは、全く暑さの苦しみであった。常夏の国などとロマンチックなことをいうのは、寒いときについて暑さとの闘い、自然の気候との闘いが、日夜展開されているようないい観がある。子どもたちにとって、何が苦痛になつてゐるかと調べてみても、暑いのが苦痛であると答えるものが相当数られるのは、本土ではみられないことである。また、夏になると、野菜がほとんどなくなるので、これも大変なことである。ことに、まるで海から海へ吹きぬけるような、すさまじい台風が三日二晩も吹きつづけたあとは、野菜が全くなくなってしまう。小さな子どもや、妊婦にとつては、栄養学上、大きな問題であろう。

氣候風土が住む人々にとって苦痛になっているだけでなく、積極的な楽しみも少ないように思われた。風光明媚で、青い海と空は南国特有の美しい色に輝いているが、小さな島のことなので、旅行をしたりハイキングに出かけたりといふこともない。温泉があるわけ

でもない。またたとえ温泉があつたとしても、一般の生活はそれを楽しむ余裕もない。天然も産業も殆どないこの土地では、人々は毎日の生活に追われ、生活の楽しみを求めるゆとりがないのである。

それに加えて、この島独特の政治問題は、人々の表情を一層暗くしている。歴史をみても、昔から支那に冊封使を送り、又、北は薩摩藩の圧迫をうけて、二つの勢力に貢物を献じなければならなかつた運命は、今に至るまで続いている。台風もこの地のあたりで方向を軽ずるのが常であり、気象学上も枢要な位置を占めているというが、沖縄のもつ地理的な宿命によつて、常に強いものに踏みにじられ、その土地に住むものは一番損をするという結果になつてゐるのである。このような歴史に培かれたためであろうか、沖縄の人は忍従の心が強い。

こうした土地に数日を過す中に、私は青年の表情が大層暗いことに気がついた。学校でゆきかい、街ですれ違う高校生の表情も、何か暗い感じを受けるのである。この若い人たちには将来に希望がないかのようのみえる。恐らく東京の大学に行くことが、最大の希望であるようである。しかしその数はきわめて限られている。就職を考えても、単作業にゆくのが一番安定した働き口であるようだ。単作業とは、アメリカ軍の基地で働くことである。現在軍労務に従事するものは、就業者数の約二〇パーセントを占めている。そして一般に就職の道はだんだん狭き門となつてきている。国際的な政治問題が生活の中に入りこみ、外を眺めても、内を省みても、暗い問題ばかりである。しかも生活は極めてゆとりがないので、青年の

表情が暗くなるのも無理はない（しかし太陽族や暴力教室のようなことは全く考えられないのがこここの青年の特徴である。）

沖縄の表情は昔から決して明るくはなかった。しかし戦前までは首里を中心とした文化が栄えて生活にうるおいを与えていたと古老はいう。優雅な曲線をもつた美しい瓦葺の官廷建築、家々をとりまく石垣も道の両側に立ち並ぶと、町に一種の重厚感を与える。その間から蛇皮線の曲に合わせて、古い琉球相聞歌が響いたのである。その沖縄の姿を臉に画いて首里を訪れても、今はその姿は何処にもない。首里城には日本軍の司令部がおかれ、戦闘はこの地で激烈をきわめたのである。丘の上の首里城の趾に建てられた琉球大学の屋上に立って、あの丘、この谷と指をさされながら、沖縄訪問第一日にきいた話はこの地の戦闘であった。文字通り山容あらたまつたこの古い土地には、石垣の一片さえも見つけることは困難である。その激しかった戦争は未だに生々しく土地に刻みつけられているのみでなく、人々の生活の中にもまで癪し難い傷となつて残つてしまつた。その激しかった戦争による家族の喪失は戦禍の最大のものであつた。

沖縄の人々で家族の誰かを戦争で失わぬものは殆どいないといふてもよいくらいなのである。

学校を訪れてみると、話をきいて驚ろくのは、大がいの学校で、小学校の五・六年生は、他の学年の三分の一の人数である。五年以下が、一学年六学級とすれば、五年六年は、二学級ずつである。つまり、戦争のときに、乳呑子を背負つて逃げて、そのまま爆弾でやら

れた場合もあるし、極度の食糧不足で赤ん坊にやる乳もなく、栄養失調で死んだ子どもも多いという。ともかく、結果としては、その頃乳児で現在まで生きのびているものは、極めて少ないものである。

それから小学校高学年と中学校では、クラスの約三分の一以上が、父親のいない子どもたちである。もちろん沖縄戦で死んだものが大部分である。父親のいない子どもが多いので、子どもたち自らそのことを何ら不思議に感じていない。むしろ父親がいないのが当たり前にくらいである。もう少し年令が高くなつて、二十歳台になると、彼ら自身が戦争の参加者である。当時の中学生、女学生、師範生は、大がい同級生の半分以上を戦争で失なつてゐる。その人々が現在二十歳台の後半の人々であり、ひめゆり隊や健児隊で生き残つた人たちで、若手の教員として活躍しているものも多い。講習の受講生の中にも、沖縄戦と直接経験された方々が沢山おられ、それらの方々の話をきくにつけても、胸のいたい思いをしたのであつた。たまたま私の滞在していた町が、前半は与那原、後半は糸満で、沖縄戦の行なわれた土地であった。敵前上陸をした米軍と、首里、那覇で、最後の抵抗を試みた日本軍がここで敗れて後、南部の方に後退していった。そのとき、一般住民も、家財を悉く捨てて、南へと落ちていった。そして沖縄最南端の、喜屋武の岬、摩文仁の岬まで追いつめられて、あとは海へ逃れるより他ないところまでいつて、十数万の住民、兵隊が艦砲に爆弾に倒れたのであった。沖縄戦で夫をなくされた方、息子、娘を亡くされた方に、何処でと尋ねると、きっと摩文仁の辺でと答えられる。誰も何処でとはつきりいえ

る人はいない。そばにいてそれを知っていた人は、またどこかで死んでしまったからである。だから戦後、文字通り死屍塗々として積まれていた骨をかたずけるにも、ほとんど名前も分らぬままに慰靈塔に祀つたのであった。多くの人に知られているひめゆりの塔、島守の塔などその他に、どの部落にいっても慰靈塔に行きあたるのである。そしてその何れも、ここに何千体を祀る。

ここに何万体を祀る」と記されている。あるとき、私の訪れた南風原には陸軍の野戰病院の跡があった。それは丘の中腹に縦横に堀つた壕だったが、その入口は今は落盤のためにふさがれて、そこにはまだ三千体以上が戦後十年の今日なお掘り出されずにそのままになっているとのことであった。ここはひめゆり隊の活躍した任地であり、日本軍が更に南下するとき、重傷患者二千人が処置されたのであった。これは南風原の村役場の方の話である。

沖繩でこれ程の犠牲を払つて戦つたいくさは、一体何のためだったのだろうか。何故一般住民までもが、少年少女までもがこんなに犠牲を払わねばならなかつたのだろうか。私はいろいろの機会にこのことを尋ねてみた。もちろんこれは何處にもある戦争そのものの犠牲である。しかし沖繩の場合、それは日本の教育の犠牲でもあつた。皇國のために身を殉するという一つの教えにしたがつて、純真な青少年学徒は、積極的に戦に参加し、最後まで投降せず、あるものは自決もしたのであった。もしも生徒が自分自身で判断して行動するようふだんからしむけられていたならばもっと少ない犠牲で済んだのではないか。上の人のいうことすべてを託し、自分

の生命をすら託したことが犠牲を更に大きくしている。これが教育の観点からみたときの一つの結論である。

糸満の町から眺められるところに、慶良間列島という島があり、その中に渡嘉敷島という島がある。この島は、沖繩で一番最初に敵前上陸した島であった。その島には頭に傷のある子や、頭がいびつになつた子どもがいるそうである。それは、ここに敵前上陸されたときに、住民は家族を殺しあつて玉碎したとのことで、そのとき殺されかけて生きかえつたのが頭のいびつな子どもなのである。もしもここにもう少し違つた教育がされていたら、あるいはすぐれた指導者がいたら、このような悲劇は起らなかつたろう。父母をなくし、また肉親の手によつて殺されそこね、また、今は多くの人々から忘れられてしまつたこの頭のいびつな子どもに、私は沖繩のすがたを見るような気がするのである。

沖繩の教育の問題は、こうしたいろいろの事情の中に生れてくる。

沖繩の人は素直で、人を信じやすい。それだから戦争の教訓に鑑みて、ひとりひとりの自立的判断に基づいて行動するように教育することが教育の大切な課題だと考える人も多い。ところが、実際に沖繩の学校では教室での子どもの発言が少ないようである。それは教室での教師の技術によるものもあるが、それよりももっと社会全般の風潮である。方言のことわざに「わらべがさしはんき」という言葉がある。これは、童はだまつてある方がよい、という意味で、子どもはとやかく口を開くなという戒めのことばであ

る。だから、他府県から来た子どもが、活潑に発言して積極的に行動すると、「いばやしばし」であるとか（威張ってやがるの意）ふみだらぐわー（ほめられたい人）とかいわれて、人からきらわれたり、眉をひそめられたりする。ことに女の子の場合にそれが強い。

こうした封建的な人間はどここの社会でもなかなか抜きがたいものようである。

一般庶民の苦しい生活につながる問題として、子どもの労働の問題も見逃せない。子どもがつらく思うこと、苦しいこととして挙げていることの中で、労働は大きな部分を占めている。労働は主として水汲み、草刈り、糖黍刈り、子守り、洗たく等がある。水利の悪い部落が多いので、泉から数町も離れた所では、子どもの手をかりなければならないのも無理はない。洗たくは、一般にきわめてよくやるのであるが、女の子は八歳ぐらいになると、川端、井戸端に腰をおろしていくつも洗濯をしているのをよく見かけたところである。遊びながら子守りをするのは極めて一般的な現象である。こういう労働がしばしば過重なほどになるのであらうか、子どもは日曜や、冬休み夏休みを嫌う傾向がある。苦しい生活の中で、子どもに手伝ってもらうのは大切なこともあるが、それとともに子どもの日常生活、家庭生活に楽しみと、うるおいとを与える必要のあることもいろいろの方々と話し合ったところであった。このような面で、家庭生活上改善すべき点は多い。

男女共学の問題も本土と異った様子を呈している。それは、しみ

せずという雰囲気で育てられる。ある学校でね、小学生に二人ずつ手をつなぐようにいたところが、足の下をくるくるとみまわして、木片を拾って、その両端をもって歩いたという。

教育上の問題については、なお多くの問題があるが、紙数もつき本年の一、二月号の本誌に村山貞雄氏が詳細に記しておられるので、それ以上附け加えることもない。ただ、現在沖縄では、小学校以上の教育は、政府も一般も力をもれているのに比して、幼児教育は注意を払っていない状態であった。最後に、沖縄の先生方からくれぐれも頼まれたことであるので特に記しておかなければならぬことは、日本復帰の切なる願いである。直ちに解決することのできないいろいろの問題があることを十分に承知しながらも、住民の心のうちにいつもこの願いが燃えているのを察することができた。沖縄の人は昔から忍耐になれているので、興奮して叫ぶことをしない。いつもこんなに損な目に会わされながらも、もっとはつきりと主張してもよさそうなのだと想つこともあつた。今後、沖縄の人々がたとえその願いを表面に出すことがなくなつても、それは「守礼の邦」沖縄の民の忍耐心によって内に籠められてしまつたのだと思うだろう。お世話をなつた方々の顔を思い浮べながら、思つたことを書き記した次第である。（筆者はお茶の水大助教授）

# 幼児の教育 第五十五卷 総目録

## 第一号

新しい年を迎えて 及川 ふみ

英國における幼稚園教員養成機関

沖縄の幼児教育(1)

園舎の改善

幼稚園におけるリーディング・レディネス

愛珠幼稚園の史料倉庫を訪う

冬の室内あそび

セールスマン・ショーマンシップ

冬の室内あそび

黒田 成子

新庄よしこ

村田 修子

黒田 成子

冬の室内あそび

黒田 成子

研究会より

玉越 三朗

津守 真

## 倉橋記念文庫について

## 第二号

学齢始期について 多田 鉄雄

保育者養成の諸問題 坂元彥太郎

幼稚園教師としての教育 富永 正

熊本大学の保育者養成 大崎サチエ

岡山大学の保育者養成 坂元彥太郎

短期大学の保育者養成(東洋英和女子  
短大の場合) 黒田 成子

幼稚園教員養成の現状 村山 松雄

について 村山 松雄

昭和三十年度全国国立大学教員養成部  
について 津守 真

沖縄の幼児教育(2) 村山 貞雄

幼・児・の・造・形 林 健造

(劇あそび)おひなさま 堀合 文子

北海道の幼稚園界 重野 孝三

研究会より 村山 貞雄

幼児教育としての年中行事について 徳久 孝

幼稚園における視聴覚教育 岩村 幾代

研究会より ▽昭和三十年度研究集会をかえりみて

玉越 三朗

津守 真

PTA観察記

幼児の運動能力調査

五歳児における言語発達とその

編集後記にかえて

指導について

ドイツ便り

フレーベル以後の幼稚園(6)

冬の室外保育

幼児の栄養

▽表紙について△

長谷川増吉

堀 文子

社会の子

斎藤 文子

アメリカ便り

一年保育と二年保育の功罪

幼稚園幼児指導要録の改訂について

幼稚園教師としての教育 上野芳太郎

幼児の美術講座Ⅱ幼・児・の・造・形

林 健造

△幼児のための童謡△

協力学級経営の実際(2)児童の

集団構成 舟木 哲郎

島根県の幼稚園界の現状 宮地 忠雄

ドイツ便り 平井 信義

幼児のボール遊び(ボールゲーム)に

関する研究 佐々木淑子

劇あそび花のこと も

幼児のボール遊び(ボールゲーム)に

関する研究 西畠光代

三谷みや子

北川 台輔

岡本 卓夫

西畠光代

村山 貞雄

角尾 和子

平井 信義

武藤 静子

園長先生と猫  
フレーベル以後の幼稚園(7)  
倉橋惣三先生を懇ぶ

後藤 江村

## 第一四号 第五号

（本年の入園児減少の傾向について）  
東京都の公立幼稚園の立場 小林 青柳義智代

東京の私立幼稚園の立場の反省 操

### 幼児の絵 私の園の研究・組の研究

鈴木 正子・後藤 鈴枝・植田 有子

板東 和子・山口 菊代・三丸喜久子

一年保育と二年保育の問題(その三)

岩手県における幼児教育の発展について

立小山トク

見てもらいたい映画

森 純吾

阪本 越郎

映画「絵を描く子どもたち」を見て

友田 静恵

劇あそびの指導

村井 とみ

講座・幼児の栄養(エネルギー代謝)

上野芳太郎

想い出

大石 雪枝

教育の一環としての保育目的の(一)

吉岡 千秋

研究(2)

西真田光代

幼児のボール遊び(ボールゲーム)に関する

研究(3)

☆子どもの眼☆  
「童話化」について(一)  
一年保育と二年保育の問題(その四)

堀田 茂兎

聾と幼児教育 聾幼児教育の重要性(1)

中村 道子

水間 クマ

大石 雪枝

松沢 豪

吉岡 千秋

三谷みや子

村山 貞雄

幼児のボール遊び(ボールゲーム)に関する

研究(4)

村山 貞雄

言葉の知能

岡本 卓夫

幼児のボール遊び(ボールゲーム)に関する

研究(5)

村山 貞雄

フレーベル以後の幼稚園(9)

玉越 三朗

フレーベル以後の幼稚園(10)

津守 真

## 第六号

幼児教育の「危機」

坂元彦太郎

保育の評価

## 第七号

牛島 義友

評価の実際とその方法 黒田 成子

幼稚教育における実際面の評価について

大崎サチエ

図書紹介『子どもの成長について、親や子どもに知らせること』

横山 節子

一年保育と二年保育の問題(その五)

幼児の美術講座 鹿野 京子

幼児の造形・相談の窓 林 健造

幼児の自然観察 トンボやセミをかわいがることでもに

阿久沢栄太郎

☆心理劇による人間関係の調整法☆

「童話化」について(二) 本田 和子

昔のこと 高浜きみの

想い出 渋沢 秀雄

家庭教育論者、母性教育論者としての吉岡 千秋

☆幼児のボール遊びに関する研究(3)☆

岡本卓夫(外)

「童話化」について(一) 松村 康平

高木千秋

想い出 渋沢 秀雄

家庭教育論者、母性教育論者としての吉岡 千秋

幼児の知能の研究V 言葉と知能(中)

村山 貞雄

フレーベル以後の幼稚園(11) 津守 真

山下 俊郎

保育者と研究 湿美 節夫

養護施設の子供たち 一年保育と二年保育の問題(その六)

黒田 成子

大崎サチエ

八坂 富子

青山学院大学 佐藤 良吉

幼稚の我儘についての一考察

名城大学 田中 一成

図書紹介『日本幼稚園史』

倉橋 憲三・新庄よしこ共著

大崎サチエ

マコトちゃんとまことちゃん

上沢 謙二

童話化について(三)

本田 和子

幼稚の運動能力はどういうに発達するか

沖・繩・の・旅

戸倉 ハル

夏の読書室

幼児の知能の研究VI 言葉と知能(下)

村山 貞雄

フレーベル以後の幼稚園(12) 津守 真

吉岡 千秋

研究発表 第一日

神田寺幼稚園 崎山 愛子

愛育研究所 村山 貞雄

最優秀知能児の特徴

多田 淑子

和田 仁子

フレーベル以後の幼稚園(11) 津守 真

山下 俊郎

保育者と研究 湿美 節夫

養護施設の子供たち 一年保育と二年保育の問題(その六)

4 幼児の生活発表

八坂 富子

調査 北海道立教育研究所 小林 幹夫

5 幼児指導のためのパーソナリティの一

岡本 卓夫

小諸市さくら保育園 栗田 成子

6 幼児の体質傾向(第一報)

長野県保育専門学院 小松 韶郎

7 六歳臼歯をめぐる諸問題

日本保育歯科協会 山田 茂

8 小諸市さくら保育園に於ける保育歯科

活動 日本保育歯科協会 山田 茂

9 幼児外傷の長期統計とその分析による

児童の体質傾向(第一報)

長野県保育専門学院 竹村 計美

10 小児期に於ける体質究明の一方案

長野県保育専門学院 竹村 計美

11 調査報告 長野県保育専門学院 茅野 和

12 保母と結婚 伊那保育園 中山 郷子

研究発表 第二日

頌樂短期大学 西 本 健

13 保育者に対する社会的評価に関する研

究 研究発表 第二日

河原 郷子

酒井 亭子

ゆかり文化幼稚園 藤田 復生

2 幼児画に関する基本的研究(二)

その現代的意義

海 卓子

栄光幼稚園 日名子太郎  
Finger-painting について(三)糸神薄

3 弱児に施行せる結果

幼児絵の研究  
教育評価の基本問題

水原 泰介

大阪市立大学 小西勝一郎  
並河 信子  
阿部 洋子

保育園児の家庭の実態調査  
三才児の競争あそびについて  
四才児の競争あそびについて  
「童話化」について(4)

小口 忠彦  
関治子  
石黒京子  
本田和子

大阪市立大学 小西勝一郎  
並河 信子

倉橋賞をうけて

栗田 成子  
竹村 計美

4 遊びの調査

名古屋市立短大 甲斐 久生・成田 錠一  
甲斐 久生・成田 錠一  
市川 八重・伊藤三保子

家庭との関連についての一考察  
山王保育園 小林 みつ

舟木 哲朗

名古屋市立短大 甲斐 久生・成田 錠一  
甲斐 久生・成田 錠一  
佐藤 典子

幼児の言葉からうまれたうた(2)

岡田 正章

名古屋市立短大 甲斐 久生・成田 錠一  
甲斐 久生・成田 錠一  
富田 陽子

本園の言語指導の基準  
舟木 鈴木

栗田 成子  
竹村 計美

名古屋市立短大 甲斐 久生・成田 錠一  
甲斐 久生・成田 錠一  
沢田みちる・杉浦 正枝

久保貞次郎・鈴木 鎮一・早川 元二

黒田成子(記)

5 玩具に対する子どもの要求について  
西南学院短期大学 高橋さやか

幼児の創造性をどのようにして培うか

岡田 正章

6 総合遊具の製作とその利用についての  
一調査 千葉大学付属幼稚園 宮内 孝

(発表者)  
久保貞次郎・鈴木 鎮一・早川 元二

村山 貞雄

7 三歳児保育の効果について  
お茶の水女子大学 津守 真

秋田 美子・高橋さやか・加藤 清子

波多野完治

8 幼年教育とはどういうことか(原稿不  
提出) お茶の水女子大学 周郷 博

(司会) 山下 俊郎

松村 康平

9 「幼稚園教育要領」の性格と問題点  
大阪学芸大学 小川 正通

実存主義と教育

藤田 健治

10 キリスト教保育の教育哲学  
大阪基督教短期大学 土山 牧羔

遊びの心理について

山村 きよ

11 パートランドラッセルの幼児教育論と  
一年保育と二年保育の問題(その七)

三年保育の経験と観察(アンケート)

千束 正子

小林 操・土屋真砂子・川崎

原田 春子・阿部伊都子・元木

12 大阪基督教短期大学 西本 美節  
保育園児の家庭の実態調査

三才児の競争あそびについて  
四才児の競争あそびについて  
「童話化」について(4)

小口 忠彦  
関治子  
石黒京子  
本田和子

倉橋賞をうけて

栗田 成子  
竹村 計美

— 62 —

四才児の器楽指導

堀合 文子

岡本 卓夫

「童話化」について(5)  
「昔話とこども」に見られる時代の推移

本田 和子

沖繩の生活

自然保育の実験報告

室谷 幸吉

津守 真

幼児の言葉からうまれたうた(3)

日白幼稚園

幼児のダイナミックヘルス  
の診断(下)  
沖繩の生活

総 目

村山 貞雄

母親は幼稚園教育に何を期待するか

鈴木 正子

岡本 卓夫

幼児教育における個性の考え方(2)

岸本 弘

沖繩の生活

幼児の知能の研究(8)知能の診断

岡田 正章

津守 真

## 第十二号

幼児のアクシデント

齊藤 文雄

岡本 卓夫

紙芝居の教育とその演出

坂本 越郎

沖繩の生活

「童話化」について(6)

本田 和子

村山 貞雄

一年保育と二年保育の問題

山村 きよ

沖繩の生活

はなし言葉の指導について

長谷川 朝子

沖繩の生活

幼児の言葉からうまれたうた

鈴木 正子

沖繩の生活

坂内ミツ先生をお偲びして

藤沢 章子

沖繩の生活

◇実賤記録◇水族館ごっこ

大熊 米子

沖繩の生活

この夏の旅

関地 ふじの  
治子

沖繩の生活



## 編集後記

一年保育と二年保育の功罪を数回にわたりて連載論議したが、じゅうぶんに議論しつくされない中に、本年を終えることとなってしまった。どれにも共通に挙げられたことは、二年保育の子どもはいろいろの点で指導された経験を豊富にしているので、集団生活をたのしむこと、お互におりあって生活することなどがすぐれている点であった。ただしこで同時に指摘されたことは、二年保育の子どもは活発だが行儀が悪く、先生の手をかりないで自分たちの間の問題を処理できるが、片づけ後始末のよくなことがおろそかになりがちである等の矛盾であった。これも比較的共通にあげられた点であり、これが一つの保育効果と考えてもよいだろう。更にまた、これらの論議のいずれにも共通に論ぜられてきたことは、一年保育児と二年保育児とを同じ組にして、混合編成にすることの望ましくない点であった。それは新入の子どもに圧迫感と劣等感をもたらせる原因ともなっている。更にいろいろの面から、混合編

成の望ましくないことが論じられていたが、実際に混合編成となることがやむを得ないような場合には、上の問題をどのように解決するだろうか。

五才児から四才児、四才児から三才児と年齢が下るにしたがって、保育はますます複雑になってくる。子どもの自然の生活形態に順応させて、やつてゆかないでしまうだろう。幼児教育はできるだけ早くからといいながら、年齢が下るほどやり方を考えねばならぬことが多いと思う。うまくゆけば非常に効果が上るもののように思われるのだが。

### ○御意見や研究を寄せられたい。

本年は日本の幼稚園八十年の記念すべきときであった。本誌でも、この機会に昔の幼稚園の状況をできるだけ資料としてとどめておきたいと思い、八月号を中心にして、古い資料を寄せていただきたい。これは本誌の第五十五巻を飾るものであった。更に来るべき年々の励みとなるであろう。

## 幼児の教育 第五十五卷 第十二号

◎ 定価 五十円

昭和三十一年十一月二十五日印刷  
昭和三十一年十二月一日發行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内  
編集兼  
発行者 津守 真

東京都文京区大塚町三五  
お茶の水女子大学附属幼稚園内  
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五  
発行所 株式会社 フレーべル館

振替口座東京一九六四〇番  
◎ 本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願い致します。